2010年3月20日発行

KGA GOLFER'S NEWS

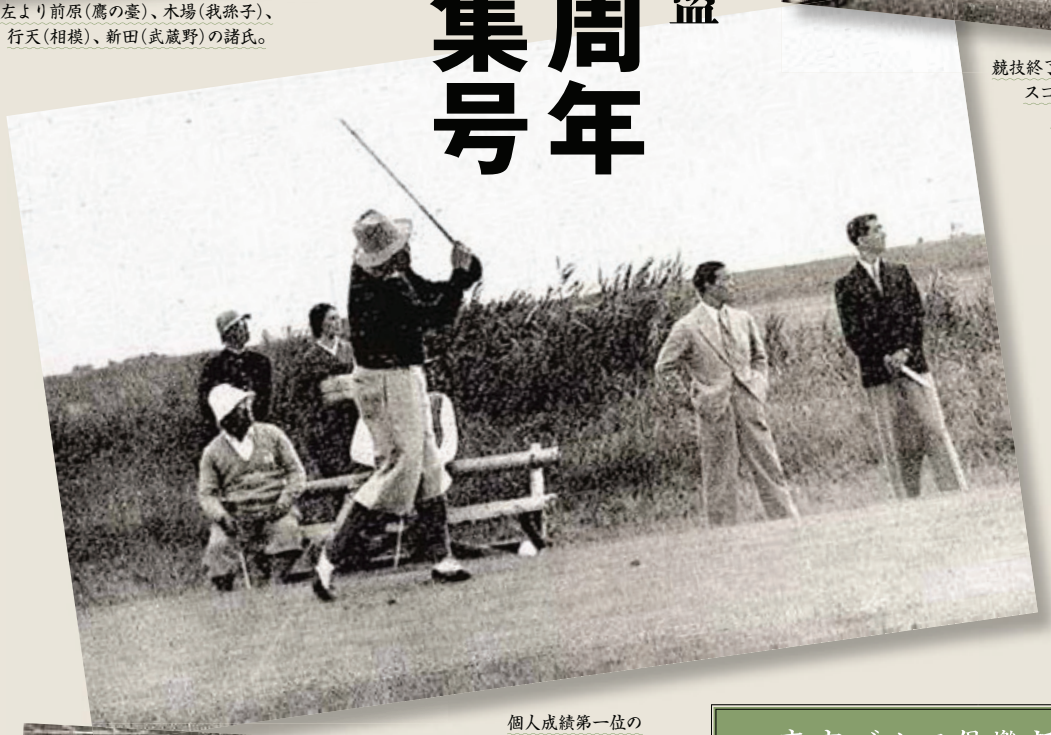
NO. 102
2010春号
関東ゴルフ連盟

1935–2010

関東ゴルフ連盟 創立75周年 記念特集号

左より前原(鷹の臺)、木場(我孫子)、行天(相模)、新田(武蔵野)の諸氏。

競技終了前に早くも夜となり、スコア・ボールド前は混乱を来した。



個人成績第一位の赤星四郎氏。

賞品授與の挨拶をする關東ゴルフ聯盟理事三輪善太郎氏。

東京ゴルフ倶樂部優勝

個人成績一、二位は赤星氏兄弟

關東ゴルフ聯盟主催の八倶楽部對抗マツチは九月十五日午前八時より川崎コースにて三十六ホールズ・メダルプレーで行はれた。參加者は八倶楽部八十名の多數に上り、關東に於けるシングル級を網羅してマツチは非常に盛観を呈した。

(月刊『GOLF』昭和10(1935)年10月号より。原文のまま)

75周年記念特集 (一)

ご挨拶

75周年は通過点。新たな歴史はここから始まる。

撮影／足立 寛（KGA広報委員会参与）

創立60周年からの第1期

平成7年	● 阪神淡路大震災
	● JGAの財団法人化と体協復帰による、組織のあり方の問題
	● アンダーハンディキャップ競技のスタート
平成8年	● 国体と体協への対応
平成10年	● 「J-sys」の無償貸与によりJGAハンディキャップ査定システムの普及
	● クローズアップされたジュニア問題への対処
平成11年	● 関東オープンの終焉
平成12年	● 女子委員の誕生
平成14年	● KGAゴルファーズカードの発行
	● コース・レート再査定開始

第2期での主だった出来事

平成15年	● 年会費の特別処置、競技参加料・コース使用料の減額
	● ゴルフ場利用税の一部非課税制度
	● ホームページの開設
平成17年	● 「J-sys For Web」の構築
平成18年	● 倶楽部対抗の拡大化
平成19年	● 関東アマでハニカミ王子（石川遼君）旋風
	● ジュニア・ゴルフスクール（小学生）の盛況
平成20年	● 「J-sys」のJGAへの移管

関東ゴルフ連盟創立75周年にあたり、連盟を代表いたしまして、一言ご挨拶を申し上げます。関東ゴルフ連盟は、昭和10年3月18日に創設の母体となった『日本ゴルファース倶楽部』の理事会で、『関東ゴルフ連盟』の創立が決議されました。

この日本ゴルファース倶楽部は、八つのゴルフ倶楽部からなるゴルファーによる親睦団体であり、会員の社交、親睦を図る事を目的に掲げておりました。

関東ゴルフ連盟初代理事長は、当時東京ゴルフ倶楽部副総裁であった森村市左衛門氏が就任され、連盟は会員間の社交、親睦を大切にする事から始まっており、この事が現在も受け継がれております。

75年前に大先輩の力で創立いたしました関東ゴルフ連盟は、現在1都10県の539ゴルフ倶楽部、約20万人のゴルファーが加盟し、平成22年度には100の競技を行う競技団体に成長いたしました。

平成7年に60周年を迎え、60周年記念史を編纂して以降の15年間を振り返りますと、日本の経済が大きく変貌し、それに伴いゴルフ界も激動の15年間であったと考えます。この15年間は、平成7年から平成14年と、平成15年から平成21年までの二つの時期に分けて考えられます。

第1期の平成7年から平成14年は、「関東ゴルフ連盟の組織論を深めながらの改革の時期」であり、第2期の平成15年から平成21年は、「改革への新しい道のりの時期」であったと考えます（年表参照）。

改めまして、この15年間を牽引して下さった諸先輩に対し、心より敬意を表します。

昨年度は理事長に就任いたしました際に、設立時の「親睦」という精神を大切にしながら「魅力あるKGA」をテーマに掲げて、ゴルフ界の活性化を考えてゆく事を申し上げました。そして、関東アマの開催方式の変更並びに女子倶楽部対抗の開催を、本年度より実施する事を決めました。また、各都県での代表者会議の充実により、良い結果が出ております。さらに、広報委員会ではKGAニュースの充実を図り、名称を『KGAゴルファーズニュース』に変更しました。また、メディア交流会を実施し、メディアとの関係促進を図っております。

昨今の経済危機は、否応なしにゴルフ界にも影響を及ぼしております。この難しい時期、関東ゴルフ連盟の繁栄のために、さらに努力をする所存でございますので、JGAをはじめ関係諸団体の方々、メディア関係の皆様、そして加盟倶楽部代表者各位の一層のご指導、ご鞭撻をお願い申し上げます。

平成22年2月19日

関東ゴルフ連盟理事長　**竹田恆正**

KGA GOLFER'S NEWS
NO.102
2010年3月20日発行
関東ゴルフ連盟
Kanto Golf Association

CONTENTS　関東ゴルフ連盟創立75周年記念特集号

75周年記念特集❶	1	ご挨拶（竹田恆正　関東ゴルフ連盟理事長）
❷	2	記念式典
❸	4	歴史発掘
❹	6	競技の主催
❺	8	正しいゴルフ用語辞典
ラウンド対談	10	廣幡忠淳・程ヶ谷CC理事長 vs 塚原裕・KGA常務理事
People	14	競技委員会　2010年競技スタートの前に
KGA決勝競技	16	2010年開催コース
グリーン研究講習会	22	コース・レート査定の必要性と倶楽部としての準備について
所信表明	30	「魅力あるKGA」を目指して
議事録	31	平成22年度事業計画
	32	通常総会、常務理事会、理事会
Strokes	24	KGAトピックス
	25	新規加盟倶楽部紹介
	40	月例競技成績表

小金井カントリー倶楽部。桜は大半がソメイヨシノで、290本が自生する。花の見頃は3月下旬から4月上旬。
関東ミッドアマチュアゴルフ選手権・第8ブロック予選（8月23日）を開催。

75周年記念特集（二）

記念式典

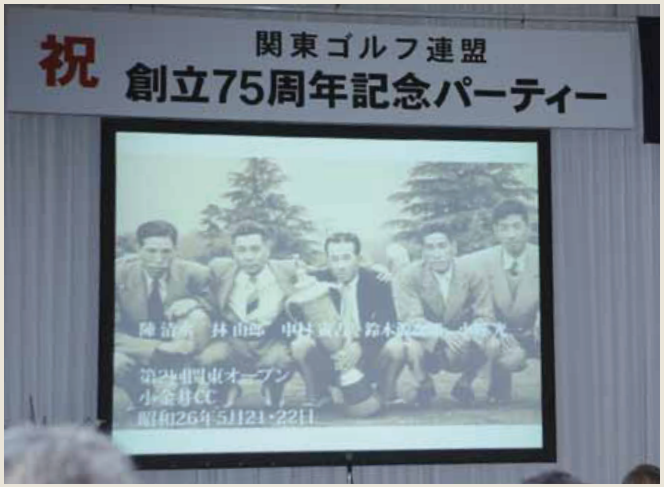
新たなスタートへ！華やぎの中に漲る決意の表明。

撮影／塚越功一、増田收（KGA広報委員）
足立 寛（KGA広報委員会参与）

関東ゴルフ連盟の75周年を祝うかのように、爽やかな好天に恵まれた2月19日（金）、11時45分に記念式典が始まり、12時15分から華やかにパーティーが開催された。

会場のグランドアーク半蔵門・富士西の間は、200人以上の参加者で溢れた。式典開催の辞に続いて竹田理事長のご挨拶は（前頁に掲載）、これまでの発展を祝うと同時に、この日を新たな出発点と宣言する力強いものだった。

竹田理事長を先頭に、髙橋、富田両副理事長揃ってのお出迎え。



照明が落とされ、広報委員会制作のDVD『75 Years of The Kanto Golf Association』が大型スクリーンに流されると、会場が一瞬どよめいた。創立以来の75年間を簡潔にまとめたものだが、改めて激動の昭和から平成までの歩みに気づかされる。この佳き日のために制作されたDVDは、KGAのホームページへアクセスして視聴ができる。

吉田友明・前KGA理事長の力強い音頭により、シャンペンの乾杯で新たなスタートを祝う。

日本ゴルフ協会・安西孝之会長（左）より、75周年記念の銀盃が竹田理事長に授与された。

パーティーに移ると会場のあちこちで、前年の優勝者との談笑や、旧交を温める交歓の華が咲いた。

75周年記念特集 歴史発掘 (三)

関東ゴルフ連盟は日本ゴルファース倶楽部を母体に八倶楽部でスタートした。

関東ゴルフ連盟の創設は、これまで昭和10年6月7日開催の創立総会とされてきた。しかし、その3か月前の3月18日に、母体となった日本ゴルファース倶楽部によって、関東ゴルフ連盟の創立が〝決議〟されていた。栄光の歴史のスタートした日を振り返る。

文・福島 靖（KGA広報委員会参与）

左より伊藤（霞ヶ関）、堀籠（程ヶ谷）、赤星六（藤澤）、赤星四（東京）の諸氏。

NGCを母体にKGAの発展の道が拓けた

関東ゴルフ連盟（KGA）が創立されたのは、昭和10年3月18日（月）のことだ。連盟創設の母体になった日本ゴルファース倶楽部（NGC）は、同日正午から理事会を開いて『関東ゴルフ連盟』の創立を決議した。

当日、この会合に出席したのは理事長の森村市左衛門以下、大谷光明、赤星六郎、堀籠庸之介、下村宏、石井光次郎、福島弘、橋本寛一、島田善助、益田亘啓の各理事と、各ゴルフ倶楽部の支配人4人が陪席した。総員15人で創立に関する問題を協議し、満場一致の賛同を得て連盟の創設が決まり、次いで運営方法が協議された。

これまでは関東ゴルフ連盟の創立を、創設決議から3か月後の同年6月7日（金）の創立総会（東京會舘）としてきたが、すでに関東ゴルフ連盟として活動している以上、正式な創立年月日は昭和10年3月18日（月）である。

ゴルファーの熱意がKGA誕生の原動力に

関東ゴルフ連盟誕生の裏には、浅野良三、堀籠庸之介というゴルフ愛好家が存在したのを忘れてはならない。日本ゴルファース倶楽部創設の一翼を担った浅野は、こう話していた。

「JGAは倶楽部を行政的に統括する機関で、社交団体でないから親睦を欠いている。社会には同じ事業を営む人々によって、各種の団体ができている。同じように、ゴルファーの団体も当然あってよい。我々の先輩は以前からそれを考えていたが、機が熟さなかった」

日本ゴルファース倶楽部が生まれ、関東ゴルフ連盟の創設に流れたことについて、こうも話している。

「関東にも関西と同じように、各倶楽部を統一したものが必要だ。それはこの日本ゴルファース倶楽部を中心としてやる。倶楽部対抗も、この団体がやる。JGAの東西対抗に出場する関東側の予選もやる」

浅野は海外視察で得た経験を生かして推進した。昭和9年、ジュネーブで開かれた国際労働会議に資本家代表として出席した。帰国するなり「欧州のゴルファーは日本人のようにシリアスにやっていない。見習うべきだ」と語ったことがある。

ゴルフ界に社交機関設立を唱えたのは、ここに由来する。やがて関東ゴルフ連盟誕生の機運が高まり、浅野は『社交機関プラス行政』をKGA設立の基本精神として、関東ゴルフ連盟の成長を見守った。

みんなのプレーがおそいので
ヤキモキした赤星氏
自転車にヒラリ飛び乗り
見廻りにでかけた。

関東八倶楽部

東京ゴルフ倶楽部
程ヶ谷カントリー倶楽部
武蔵野カンツリー倶楽部（解散）
霞ヶ関カンツリー倶楽部
我孫子カンツリー倶楽部
（現　我孫子ゴルフ倶楽部）
相模カンツリー倶楽部
藤澤カントリー倶楽部（解散）
鷹之台ゴルフ倶楽部
（現　鷹之台カンツリー倶楽部）

関東ゴルフ連盟に関わる偉大なる先達たち

赤星四郎（明28―昭46）
努力を重ねて日本アマを制した。晩年はコース設計に乗り出し、程ヶ谷CCなどを手がけた。

赤星六郎（明31―昭19）
第1回日本オープンで、プロをおさえて優勝した唯一のアマチュア。草創期の日本のプロを指導し、近代ゴルフ界の大功労者。

浅野良三（明22―昭40） 写真
1924（大正13）年創立のJGAの基礎固めに尽力した。関東ゴルフ連盟の創立にも貢献した。

浅見緑蔵（明41―昭59）
程ヶ谷CC出身で、赤星六郎に才能を見出された草創期のプロ。

新井領一郎（安政2―昭14）
明治9年に渡米。生糸商として成功し、帰米は60年に及んだ。明治35年、ノースカロライナ州のパインハーストでゴルフを覚え、以後ニューヨークにいる日本人にゴルフを勧めた。その中の一人が井上幸之助だった。

チャールズ・H・アリソン（明15―昭27）
英国のコース設計家。東京GC朝霞コースを始め、川奈、廣野、霞ヶ関などを手がけた。アリソンバンカーとは、氏の手法で造られた深く大きいバンカー。

安西　浩（明34―平2）
1971（昭和46）年、石井光次郎氏の後任として日本GAの会長に就任。この年から日本女子オープンをJGAで開催するようになった。第1回大会は安西氏が理事長を務める大利根CCで行われた。

石井光次郎（明22―昭56）
戦時中1942（昭和17）年、ゴルフは統制を受けて禁止されかかった。時のJGA理事長だった石井氏は『ゴルフは日本古来の遊戯だ』と力説して存続を成功させた。戦後はJGA会長、体協会長として日本のゴルフの復興に力を尽くした。

井上準之助（明元―昭7）
米国に在勤中、新井領一郎氏にゴルフを教えられた。日本で最初のゴルフ倶楽部（東京GC）を創立した。

井上　信（明18―昭43）
商社員として米国滞在時にゴルフを覚え、帰国後の1918（大正7）年、駒沢での外人中心だった日本アマで、日本人として初めて優勝した。

井上誠一（明41―昭56）
東京GC朝霞コースの設計のため来日したアリソンに接したことで設計家の道に。昭和30年代から数多くの名コースを造った。

上田　治（明40―昭53）
アリソンの助手を務めて設計技術を学び、主に関西地区で活躍した。

大倉喜七郎（明15―昭38）
英国に留学して帰国後、大倉財閥を築く。観光開発とゴルフの普及・発展のために、川奈ホテルとゴルフ場を開発。

大谷光明（明18―昭36） 写真
英国に留学中にゴルフを覚え、帰国後、JGA創立の中心人物だった。難解なルールを研究し、邦文化を実現させた『日本のゴルフの父』といわれている。

小笠原勇八（明34―平2）
ゴルフ史家。戦前のゴルフ雑誌を振り出しに、ジャーナリスト生活を送る。50年にわたって月刊誌に日本のゴルフ史を裏づける資料を収集した。

小野光一（大8―平12）
大連でキャディをやっていたが有富光門氏に才能を見出され、程ヶ谷CCで浅見緑蔵の弟子になり、戦後は中村寅吉と並んで日本を代表するプロになった。カナダカップ優勝の功労者である。

アーサー・H・グルーム（弘化3―大7）
英国ロンドン生まれ。明治初期から神戸に住み、日本女性と結婚した製茶貿易商。1901（明治34）年に六甲山上に日本初の4ホールのゴルフ場を造った。

相馬孟胤（明22―昭11）
東京GCが駒沢コースを造った際、専門知識を生かして芝の栽培、研究に取り組んだ。朝霞コースの全面ベント化には失敗したが、今日、日本のゴルフ場で使われている芝は相馬博士の研究の遺産といってよい。

高畑誠一（明20―昭53）
関西ゴルフユニオン設立を提唱すると共に、JGA理事として尽力。日本アマ、東西対抗に活躍。ゴルフ規則にも造詣が深く、ルールの普及に努めた。

中村寅吉（大4―平20）
程ヶ谷CC出身のプロ。1957（昭和32）年、カナダカップで小野光一と組んで団体優勝をとげて、その名は世界的に知れ渡った。

鍋島直泰（明40―昭56）
1ラウンドで2度ホールインワンの記録保持者。日本アマ3連勝。アマチュアゴルフ界の大御所だった。

野村駿吉（明22―昭38） 写真
1927（昭和2）年に日本アマ優勝。戦後は同期の石井光次郎とともに、国際交流や日本のゴルフの発展に絶大な貢献。

原田盛治（大5―昭42）
幼少期からゴルフに親しみ、1939（昭和14）年、東大在学中に日本アマを制して天才といわれた。この時代、学生が日本アマに勝つことは至難といわれていた。

細川護貞（明45―平17）
戦前、戦後を通じてアマの中心プレーヤー。JGA会長時代には利用税撤廃に力を尽した。

堀籠庸之介（明23―昭54）
大正時代の末期からゴルフに親しみ、当時完成した武蔵野CC平山コースに入会。赤星六郎の指導を受けて上達した。程ヶ谷CCに入会し、倶楽部選手権に優勝し、同CCではAクラスの実力者になった。総務委員、名誉書記を歴任した。

水谷叔彦（慶応元―昭22） 写真
日本人ゴルファー第1号。英国の海軍大学に留学し、1896（明治29）年、自らの日誌に「ゴルフィングを為す」と書き残している。

宮本留吉（明35―昭60）
日本オープン6回優勝、戦前の日本のトッププロ。米国、英国オープンに挑んだ最初の日本人。晩年はクラブ製作も。

三好徳行（明44―昭60）
正確無比なゴルフは『機械ゴルフ』と異名を取り、1953（昭和28）年から日本アマ3連勝の偉業を達成。長年の経験を生かしコース設計も手がけた。

森村市左衛門（明6―昭37） 写真
東京GC、程ヶ谷CCの創立者で、国際交流に熱心だった。JGA理事長、会長を歴任した。

安田幸吉（明38―平成15）
日本プロゴルフ協会初代理事長。東京GCで赤星六郎の指導を受けながら本格派のプロとして育てられた。日本のゴルフ技術向上の尖兵になっている。コース設計に情熱を傾けた。プロ選手として初めて紫三光瑞宝章を受けた。

JGA選定の「日本ゴルフ100年顕彰者」のうち、KGAと関わりの深い功労者を抜粋。（資料提供・東京ゴルフ倶楽部史料室）

75周年記念特集

競技の主催（四）

八倶楽部からスタートし75年経てKGA加盟は539倶楽部へ。

文・福島 靖（KGA広報委員会参与）
協力／東京ゴルフ倶楽部史料室

関東ゴルフ連盟は競技主催団体である。しかし「競技を楽しむため」だけに結成されたのではない。その礎には「全ゴルファーに交流の場を」との、高邁な精神が受け継がれている。発足当時から、競技の歴史の源流を遡ってみよう。

「会員の平等性と、民衆化された社交機関であること」

現在、日本ゴルフ協会（ＪＧＡ）の傘下に八つの連盟があるが、関東ゴルフ連盟（ＫＧＡ）は、他の地区連盟とは組織化された経緯が少し異なる。

というのは各地区連盟は、競技会の開催を主たる目的として創設されている。だが、関東ゴルフ連盟の場合は、日本ゴルファース倶楽部（ＮＧＣ）という社交団体を母体にして創設されている点だ。

母体となったＮＧＣは、昭和７年12月に創設された、ゴルファーによる社交団体だった。この組織は「日本のゴルフ倶楽部会員で組織し、会員の社交、懇親、および便宜を図る」ことを主旨に掲げていた。

同倶楽部の理事だった石井光次郎は、ＫＧＡへの発展を語っている。

「ＮＧＣとＫＧＡは併用したいと思う。ＮＧＣは従来どおり成長させ、ＫＧＡは新規に一室を借りて委員会用に準備すること。八倶楽部が希望する月額50円くらいを負担額として、諸種の支出に充当していかなる設備などができるか等を取り調べ立案するように」

ＮＧＣの性格について、常務理事として牽引役を担っていた浅野良三は、こう語っていた。

「ＮＧＣは決して一部特殊階級のものでなく、まったく民衆的な倶楽部であることを、十分に了解されるよう希望する」

ＮＧＣ創設時の活動骨子を、一部抜粋しよう。

1 会員が自己所属外の倶楽部でプレーせんとする時は、便宜を図り、その倶楽部へ紹介する。

2 会員は同館内に設けられた練習場において練習し、先輩の指導またはプロの教授を受けられる。

3 各倶楽部の競技成績その結果を掲示する。

活動は広範囲に及んだが、一貫して筋を通したのは会員の平等性と民衆化された社交機関であることだった。

ＫＧＡ創立後と戦後の華々しい活動

昭和10（１９３５）年3月18日創立の関東ゴルフ連盟は、事務所を東京・丸の内の東京會舘内に置き、同年６月７日の創立総会を経て、本格的な活動を開始した。

手掛けた事業の課題の一つは競技の振興だった。このため真っ先に日本ゴルファース倶楽部時代からの、倶楽部対抗競技（戦前は関東カップの名称だった）の開催に取り組んだ。創立後の最初の倶楽部対抗競技は昭和10年９月15日、多摩川の河川敷コースの川崎ゴルフ倶楽部で開催され、八倶楽部が出場した。36ホールのストロークプレーで争われ、優勝は東京ゴルフ倶楽部。１チーム10人が出場し、そのベスト８の合計が１３５９打、15打遅れて我孫子ゴルフ倶楽部が２位になった。（今号の表紙と４～５頁の写真は、当日の競技風景）

この倶楽部対抗戦はその前年に第１回大会が程ヶ谷カントリー倶楽部で開催され、ＫＧＡの大きな事業になった。

が、昭和15年の大会を最後に、戦前の倶楽部対抗競技は戦争を挟んで行われず、戦後に再開されたのは昭和29年、関東倶楽部対抗という名称になり、関東カップの呼称は消えた。

話を戦前に戻すが、昭和10年以降は、時局悪化の流れとは逆に日本のゴルフ熱は高まり、昭和13年には関東のアマチュアゴルフ選手権が創始された。この年にＪＧＡは大日本体育協会（現在の日本体育協会）の加盟団体になり、ゴルフは健全なスポーツとしての下地を築いた。

ところが昭和17年には戦時色がさらに強まり、大日本体育協会は時の政府によって解散させられた。このためＪＧＡは『打球部会』と名を変え、ＫＧＡも『関東打球部会』となって、細々ながら活動を続けた。戦時下の昭和18年、戦前最後の関東アマチュアゴルフ選手権が鷹之台ＣＣ（鷹之台打球場）で開催されたのを最後に、アマチュアのゴルフ競技は行われなかった。プロの競技だけは『関東専門選士打球大会』として続けられた。

昭和20年８月、終戦。同年10月、打球部会は解散して、以前のような組織作りを目指した。

ＪＧＡの戦後の復興は昭和24年11月16日。だがＫＧＡは一足早く、９月１日に活動を再開している。その年には関東アマチュアゴルフ選手権を開催し、関東、関西の地区連盟は従来どおり、ＪＧＡの支部として連絡事務を代行する役を担った。

昭和25年に入ると活動は本格化し、秋には関東オープン選手権が創始された。その間、米軍の接収を免れた相模ＣＣでは、在日米軍人夫人と日本の女子のゴルフ交流が始まり、やがて関東女子ゴルフ選手権の開催に漕ぎつけた。

現在、ＪＧＡの傘下に８地区連盟が存在する。各連盟は地域ごとに日本のゴルフ普及、底辺の拡大の使命を担い、活発に活動している。

関東ゴルフ連盟の主な活動（データは平成21年度の実績）

- 平成22年度KGA加盟倶楽部数　539倶楽部（正会員507／準会員31／団体準会員１）
- KGA主催決勝競技　10競技、参加人数1787人　大会役員・委員、340人
- KGA主催予選競技　74会場、参加人数１万1976人　大会役員・委員、512人
- KGA主催月例競技　11会場、参加人数約1136人
- KGA後援競技　約50競技
- ジュニアスクール　20会場、参加人数2199人　大会役員・委員、231人
- KGAジュニアゴルフ大会　2会場、参加人数261人　大会役員・委員、26人
- グリーン研究講習会　2会場、参加人数234人
- コース・レート査定　96コースを査定

関東ゴルフ連盟　草創期～復興への歩み

1896	水谷叔彦が日本人で初めて英国留学中にプレー
1901	アーサー・Ｈ・グルームが六甲山に４ホールを造成
1903	神戸GC創立。日本初の倶楽部選手権開催
1906	横浜に根岸GC創設
	第１回日本アマ開催
1913	東京GC（駒沢）創設
1917	仙石原GC（初のパブリック）開場
1919	軽井沢GC開場
1922	程ヶ谷CC（初の18ホール）開場
	慶応義塾大学ゴルフ部創立
1924	日本ゴルフ協会(JGA)創立
1927	第１回日本オープン開催（優勝・赤星六郎）
1928	川奈ホテルG開場
1929	霞ヶ関CC開場
1930	我孫子GC開場
1930	鷹之台CC開場
1931	相模CC開場
1932	日本ゴルファース倶楽部(NGC)創立
1934	NGC主催の倶楽部対抗（関東カップ）を程ヶ谷CCで開催
1935	関東ゴルフ連盟（KGA）創立
	第１回KGA主催の倶楽部対抗を川崎コースで開催
1936	那須GC開場
1937	小金井CC開場
1938	第１回関東アマ開催（我孫子GC、優勝・久保田瑞穂）
1939	第１回関東オープン開催（我孫子GC）
1940	戦争により関東アマ中止
1941	JGAの解散にともないKGA解散
1945	朝霞、藤澤、武蔵野（六実）、藤ヶ谷などが解散
1949	JGAの復活にともないKGA復活
	相模CCで戦後初の関東アマ開催（優勝・近衛通隆）
1950	第１回関東オープン開催（優勝・中村寅吉）
1952	川崎国際生田緑地G開場
1953	大洗GC開場
	千葉CC野田開場
1955	第１回関東女子ゴルフ選手権開催（優勝・伊沢鈴子）
	KGAハンディキャップ査定規約を制定
1955	日光CC開場
	箱根CC開場
	相模原GC開場
1957	霞ヶ関CCでカナダカップ開催（優勝・日本）

75周年記念特集

正しいゴルフ用語辞典（五）

和製ゴルフ英語のすべてを否定はしないが…。

昨今、ゴルフマナーや服装の乱れが問題になる。ゴルフ用語もまた和製英語や、誤用のオンパレード。先達たちは本場の英国のゴルフを精神から学ぼうと、倶楽部の議事録まで英文で記していたのに……。

間違った短縮や表記の例

国際化の時代。英語の発音をカタカナ表記するのは難しいが、明らかに間違っているゴルフ用語は即刻改めよう。「過ちは改むるに憚ることなかれ」

×ティグラウンド、ティグランド
○ティイングラウンド、またはティ
☆KGAでは「ティーインググラウンド」またはティーと表記する。

×ティマーク
○ティーマーカー
☆KGAでは「ティーマーカー」と表示する。

×オーナー
○オナー
☆オーナーは所有者のこと。

×ハンデ
○ハンディキャップ
☆KGAでは「JGA HDCP」または「HDCP」と略す場合もある。

×ホアー！
○フォー！
☆大声で発声を。

☆OBは文字数に制限のある場合の便宜上の表記。会話の「オービー」は認知してよい。

×パターが入る
○パットが入る
☆「3パターした」とも言わない。

×ドライバーが飛ぶ
○ティーショットが飛ぶ
☆飛ぶ（道具の）ドライバーはあるが……。

×アンプレ
○アンプレヤブル
☆アンプレイアブル（プレー不能）と表記する場合もある。

×6インチリプレース
○6インチプレース
☆リプレースは元の位置に戻すこと。プレースはその長さ分、ボールを動かすこと。

×ホールカップ
○ホールまたはカップ
☆「カップに蹴られる、カップをなめる」などの慣用句は、会話に留めたい。

△ホールアウト
☆最終ホール終了ではない。

△プービー
☆最下位のこと。プービーメーカーは和製英語。

×チーピン　×ノーズロ　×チョロ
☆すべて論外！

改めたほうがいい和製英語

日本独特のゴルフ用語の中には、慣用句として定着しているものが多い。海外では通用しない。

△コンペ
△ドラコン
△オーバードライブ
△グリーンオーバー
△ナイスショット
△ミスショット
△ダフる
△ワンペナ
△パーオン
△ワンオン
△ナイスオン
△バーディーチャンス
△ニアピン
△ピンそば
△ナイスバー
△ダボ、トリプル

意味の違う和製英語

意味まで違ってしまう和製ゴルフ用語は、表記も慣用句としても使うべきではない。

×シングルプレーヤー
○ローハンディキャッパー
○シングルハンディキャップフィギュア
☆KGAではハンディキャップの数値で表記する。

×ガードバンカー
○グリーンサイドバンカー
☆サイドバンカーはフェアウェイ横のバンカーで、クロスバンカーはフェアウェイを横切るバンカーのこと。

×ミドルホール、ロングホール
○パー4ホール、パー5ホール
☆ホール距離の長短ではない。ただしショートホールは和製英語ではないが、パー3ホールと表記したい。

×サービスホール
○イージーホール
☆易しいという意味。

倶楽部対抗の個人栄誉を称える『最優秀選手賞』『ベストスコア賞』

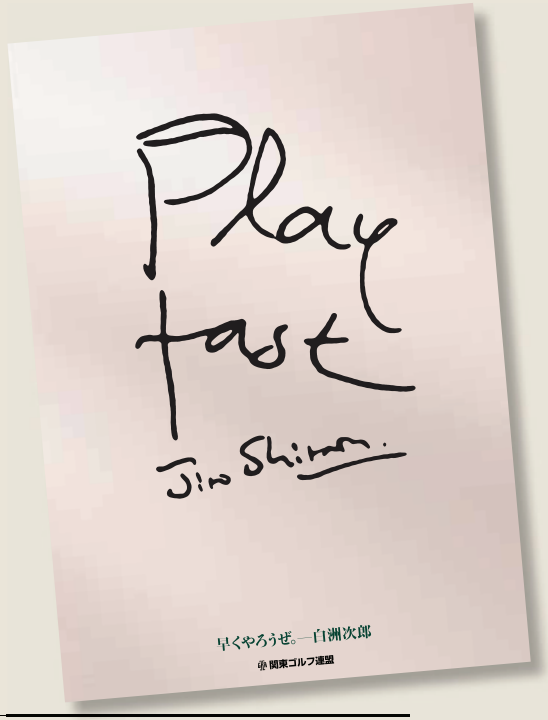
KGAが開催する競技のひとつに、関東倶楽部対抗競技がある。この競技の理念は、KGAの母体である『日本ゴルファース倶楽部』（関東カップ）の精神を受け継いだ、ゴルファー同士の親睦、社交性を高める点にある。

対抗競技に優勝した倶楽部に対してはKGAから優勝盾が贈られるが、同時に、個人のベストスコアをマークしたプレーヤーは『メダリスト』として表彰していた。

メダリストとは「マッチプレーの勝ち抜き戦出場者を選ぶための、ストロークプレーによる予選の勝者」というのがゴルフの正しい表記であることから、今季の倶楽部対抗競技から、決勝でベストスコアをマークした競技者を、最優秀選手として『最優秀選手賞』を授与する。また本戦の出場をかけた予選競技で、一番いいスコアを出した競技者には『ベストスコア賞』をそれぞれに贈る。

倶楽部対抗戦は団体競技であり、本来なら個人表彰は対象外が本筋であることに基づく。団体戦ながら個人を表彰していた前例は、関西ゴルフ連盟の『ゴールドメダル』（倶楽部対抗戦）にある。この競技は昭和7（1932）年、関西ゴルフ連盟の主催で創始された競技で、勝ったチームには優勝盾を、個人のスコアのベスト3までに、メダルを与えていた。

マッチプレーの予選でベストスコアを出した競技者を『メダリスト』として表彰するのは、マッチプレーに入るとそのスコアがまったく消えてしまうので、その名誉を永遠に称えるためである。



早くやろうぜ。白洲次郎

今年、創立75周年を迎えるKGAは、ゴルフ本来の精神を再確認すべく『Play fast』をキャンペーンテーマに掲げた。スロープレーの追放のみならず、ゴルファーとしての心構えを喚起するものだ。

言葉の語源は「プレーは早く、スウィングはゆっくり」という英国の諺に依る。この書体は軽井沢ゴルフ倶楽部の理事長として後進を温かく、また厳しく指導した白洲次郎氏（1902～85）の筆になる。

白洲氏は激動の太平洋戦争期にあって、実業家として、また吉田茂首相の側近として、戦後の我が国の復興に粉骨砕身の貢献をされた。回顧録はおろか葬儀すら拒否して「原則（プリンシパル）」を貫いた潔い生き方を、我々の範としたい。（写真提供・共同通信社）

伝統に培われた精神
程ヶ谷CCの「品格」に学ぶ

KGA 常務理事 対談

廣幡忠淳・程ヶ谷カントリー倶楽部理事長（KGA常務理事）
塚原　裕・関東ゴルフ連盟広報委員会委員長（KGA常務理事）

撮影／足立 寛（KGA広報委員会参与）　協力／程ヶ谷カントリー倶楽部（横浜市旭区）

**9時にティオフしてハーフラウンド。
シャワーを浴びて着替えて、
11時にはこの対談取材へ……。**

練習なしの撮影ラウンドでも、
スコアは数オーバーの実力。

先覚者の築いた伝統を継承して88年……

塚原裕・KGA広報委員長（以下、塚原）　桜の開花には少し早いですね。本日は廣幡理事長に、ゴルファーの範たる程ヶ谷CCの伝統と格式について、お話を聞かせていただきます。どうぞ、よろしくお願いいたします。

廣幡忠淳・程ヶ谷CC理事長（以下、廣幡）　こちらこそ、よろしくお願いいたします。伝統と言いますか、程ヶ谷CCで継承されていることが、他の倶楽部の皆様の参考になれば幸いです。しかし、格式となりますと、周囲から見れば堅苦しい、敷居が高い、と誤解されているかもしれません。確かに昔は、エクスクルーシブで会員中心でしたが、今はそうでもないのです。

塚原　会員制につきましては後ほどおうかがいするとして、まず、倶楽部の歴史についてお聞かせください。振り返りますと程ヶ谷CCは、1922（大正11）年の創設。コースは翌年に横浜市保土ヶ谷区（現在の横浜国立大キャンパス敷地）に開場しました。我が国で初の18ホールのチャンピオンコースでした。創立当時の先駆者の気概は、現在の会員にどのように受け継がれているのですか？

廣幡　東京ゴルフ会（東京ゴルフ倶楽部と程ヶ谷カントリー倶楽部の母体となった社交倶楽部）が、まず駒沢に9ホールを開場して、わずか9年後に同会が程ヶ谷CCを創立したのですから、発起人諸氏の情熱は並大抵ではなかったでしょう。よくぞ団結して完遂されたものと、今でも私たちは先達への感謝を忘れません。

塚原　まず「人ありき」ですね？

廣幡　はい。その創立の当時の資料などを読みますと、倶楽部の運営は選ばれた役員に一任する、という暗黙の合意があったようです。今日もなお、その信頼関係が倶楽部運営の礎となっております。それも程ヶ谷CCの〝伝統〟でしょうか。

塚原　自分たちの合議制で選んだからには、役員にすべてまかせるという慣習が、88年間も続いているのですか？

廣幡　程ヶ谷CCには「アクティブ・メンバーの顔と名前を、7割は覚えておけ」という、諸先輩からの申し送りがあります。もちろん、ゴルフを通して親しくはなっても、ビジネスの話しは一切しません。傍から見ればゴルフ好きが固まっているだけで、利害関係はないのです。この交遊こそ、88年間の得難い財産です。

塚原　倶楽部の運営も、その信頼に沿って築かれているのですね。会員主体の〝ゴルフ文化〟でもあります。プレーでは「同伴競技者や後続組がワンオンしても、無闇に拍手などしない」という慣習も、よく知られていることですね。

廣幡　ゴルフの楽しみ以外は、余計なことをしないというシンプルな考えです。食堂のメニューにしても魚料理と肉料理、カレーかハッシュドビーフの3種類のみです。ただし、食堂では11月から3月の間、必ず上着を着用していただくことになっております（4月～10月の間は随意）。お忘れの方にはお貸ししています。

塚原　そうしますと、クラブハウスへ入場の際は、上着着用の規定はないのですか？

廣幡　原則として上着をとなっていますが、ご来場をお断りすることはありません。車の運転などは、セーターのほうが楽でしょう。会員は上着をロッカーに常備していますしね。

塚原　昨今はゴルファーの品格を問われるような服装の乱れ、マナーの低下、エチケットの欠如と、どの倶楽部もドレスコードは、頭を悩ませております。この模範が程ヶ谷CCだと感じますが、具体的にはどのように励行されていますか？

廣幡　常識的なことです。倶楽部としてというより、私個人のお願いとして、目に余れば伝えます。私の口やかましさは、世間に知れ渡っているのでは？

塚原　ええ、理事長は恐い方だと。（笑）

スロープレーの撲滅は全倶楽部の課題

廣幡　私も若い頃は、白洲次郎さんによく怒鳴られました。学生野球一辺倒でゴルフはほとんどやるヒマのない頃、夏休みに軽井沢ゴルフ倶楽部で……。あれは勉強になりました。

3月上旬の撮影で、写真表現として緑色が欲しい状況で、廣幡理事長に革靴でのパッティング・グリーン上の撮影を許可していただきました。
「KGA GOLFER'S NEWS」取材に対する廣幡理事長、および程ヶ谷CCの特別のご配慮に感謝いたします。

塚原　よろしければ白洲次郎氏との交遊を聞かせてください。

廣幡　白洲さんは、普段は英国仕込みの温厚な紳士でした。でも、避暑地の軽井沢なんだからと、裸足につっかけで来場しても、半ズボンのプレーでも、気にもされませんでした。

　一方、人に迷惑のかかるような行為は、絶対に許さなかったですね。例えば私が駐車スペースから少しでもはみ出して車を停めれば、たちまち呼び出されて怒られたものです。

　そうそう、友人などは〝立ちション〟を見つかって、即刻「出てけ！」と、追い返されました。その真夏の炎天下、白洲さんは従業員と一緒に、草むしり作業をされていたそうです。大きな麦わら帽子をかぶって。

塚原　軽井沢ＧＣの理事長だった方が、自ら草むしりですか……。今年、広報委員会ではその白洲氏の自筆を借用し、ＫＧＡのキャンペーン・テーマとして「Ｐｌａｙ　ｆａｓｔ」を掲げております（9頁参照）。

廣幡　確かにスロープレーは、ゴルフ場の運営にさえ影響しかねない問題ですね。白洲さんは、スロープレーには特に厳しかったです。下手な腕前だの服装などには寛容でしたが、Ｐｌａｙ　ｆａｓｔ（早くやろうぜ）は、口うるさく言っていました。

塚原　程ヶ谷ＣＣでの、スロープレー撲滅対策はありますか？

廣幡　倶楽部の会合の席上でも、その対象となる会員を指名して、プレーが速くなるか、考えるようにお願いすることがあります。無礼は承知の上ですが、スロープレーは個人の振る舞いで、全体が渋滞するからです。

6番ホールには住人のオシドリ。もうすぐ春です。

塚原　後続組みをパスさせるのも程ヶ谷ＣＣの伝統では？

廣幡　調べてみますと、何組かパスしても入場者が１４０人にもなりますと、全体の進行は変わらないのです。ただ、売店や食堂で前組と話し合って、お互いに譲り合うことはあります。

塚原　これも「人」ですね……。

廣幡　傾向として、若い人のプレーは遅く、年寄りは速いようです。程ヶ谷ＣＣの場合、会員の平均年齢が70歳ですから、若いという区切りは微妙です。（笑）

祖父・森村の熱き想い「程ヶ谷を守れ」を実行

塚原　ご自身のゴルフについて、お聞かせください。程ヶ谷ＣＣの創設にあたってご尽力された森村市左衛門氏（5頁・功労者参照）は、廣幡理事長の祖父です。そのお人柄を、受け継がれているのではないでしょうか？

廣幡　中学生の頃、祖父にすすめられて溜池山王にあった『バーディー倶楽部』（練習場）へ行ったのが最初です。そこで安田幸吉プロと浅見緑蔵プロ（4～5頁・功労者参照）に教わったのですが、私は昼飯のトンカツが楽しみで……（笑）。もっと熱心にやっておけばよかったですよ。

塚原　森村氏との思い出は？

廣幡　語り尽くせませんが、その後、戦争でゴルフはできなくなりました。当時、中学生だった私に「程ヶ谷をチャンとやってくれ」と言っておりました。それを〝じいさん〟の遺言として、現在、私はいろいろなことを投げうって、程ヶ谷ＣＣの運営に関わっています。ゴルフは年間95ラウンドですが、従業員と同じで毎日でも通います。（笑）

塚原　そのひとつが、公益法人の『特別民法法人』問題ですね？

廣幡　2年前の12月に施行された『公益３法』（公益法人改革関連３法）は５年以内に、公益社団法人か、一般社団法人か、解散かを定めております。これは全国に29ある社団法人の倶楽部にとって、極めて深刻な問題です。ただし、各倶楽部によって事情が違いますので、まだ詳細は申し上げられません。が、対応策がまとまらないのが実情です。幸い程ヶ谷ＣＣでは、会員の了解が得られ、3年後の対応策も承認されております。

塚原　ご苦労を推察します。ところで、程ヶ谷ＣＣ入会の経緯は？

廣幡　入会したのは42歳でしたか、当時は入会資格が40歳以上でした。ウェイティングの方が何百人もいらっしゃって、入会審査がとても厳しかった頃です。当時、父親が常務理事をしていましたが、審査書類には父の字で「いの一番に落とせ」とあったそうです（笑）。他の方を落として、自分の息子は取れないと、後になって聞きました。

塚原　ゴルフの腕前はいかが？

廣幡　学生時代は野球一筋で、社会人になって本格的に始めたゴルフも飛ばしには自信があって、入会当時のハンディキャップは14。すぐ上級者になれるといわれていたのですが、60歳までなれませんでした。誕生日の日に倶楽部競技で優勝して、12のはずが８になったのです。

塚原　いいお話ですね。本日はありがとうございました。

廣幡　こちらこそ、楽しかったです。ありがとうございました。

ラウンド対談を終えて

塚原 裕（広報委員会委員長）

ハーフラウンドを1時間10分とは、まさしく「Ｐｌａｙ　ｆａｓｔ」。程ヶ谷ＣＣは全国に29倶楽部ある社団法人の中で、公益社団法人を最初に取得（平成21年12月）。廣幡理事長は会員への説明会を数十回、関係官庁への陳情と打ち合わせを１５０回ぐらいと、緻密な計画と努力を重ねてこられました。後世に多大な評価をしていただけると確信いたします。

　厳格な理事長ですが、雪でクローズしたコースで、従業員の皆様と一緒になって汗をかき、雪掻きをされるそうです。ダンディーでシャイなところが、とても魅力的に感じました。ご多忙のところ、楽しい一日をありがとうございました。

男の「品格」ここにあり。毅然とした姿勢を貫く中にも時折浮かぶ少年のような笑顔。

ひろはた ただずみ

昭和33年に学習院卒業。大学時代は野球部でキャッチャー。当時の学習院は最強で、東都6大学野球リーグに優勝。常陸宮様とはクラスメイト。程ヶ谷CCのキャプテンを6年経験し、3年前から理事長に就任。霞ヶ関カンツリー倶楽部、軽井沢ゴルフ倶楽部も会員。「最近は家族で、とくにゴルフを始めたばかりの娘とラウンドするのが楽しみです」（廣幡氏談）

People

根っからゴルフが好きなのでボランティアは辛くても楽しいです！

競技委員会に「全員集合！」今季のスタートを前に準備万端の競技委員の皆さん

撮影／塚越克一（KGA広報委員）　取材／グランドアーク半蔵門

お話し／内藤正幸競技委員会委員長（左）、田中克幸副委員長（右）

3月1日開催の『平成22年度第1回KGA競技委員会』には、KGA競技委員が1都10県から79人参加。胸のエンブレムが誇らしげだが、その胸中はいかが……。

内藤　競技に馴れていない選手に「競技委員は恐い人」と思われては困りますね。

田中　ルールに関する相談相手として接していただきたいです。このケースでの裁定は、と聞かれれば教えますが、こうしなさいとは言えません。

内藤　プレーでのジャッジだけでなく、コースの設定から運営・進行までが、競技委員会の最も重要な役割りです。

田中　昨年、悪天候でスタートが2時間半も遅れたことがありました。あの時は関係者全員で対応にあたり、無事競技が終了した時は、涙が出るほど嬉しかったです。もちろん選手たちの協力もありました……。

競技開催コースの設定とは？

内藤　前半の競技開催コース（予選・決勝）の下見と打ち合わせは、春先にすべて行います。

田中　競技用の設定も、必ず競技委員が4名で確認します。手分けして関東中を飛び回りで、日帰りできない場合もあります。競技委員ひとりが最低でも20～30コースを受け持つのですから、相当ハードですよ。

内藤　個人的なお願いとしては、実際に選手と同じ条件で、全コースをプレーしていただきたいのですが……。スポーツ主催団体であるKGAの競技用の設定とはいえ、ことさら難しくはしません。

競技の開催前後は？

田中　事前に打ち合わせをしていても、天候やコースコンディションによって、直前に変更することもあります。競技当日は開場が6時なら、30分前には到着しています。ここで再度、コースチェックをします。

　時には何台かの車に便乗してコースに向かう朝、集合時間の前に出発してしまい、ロビーに取り残されて途方に暮れる委員もいます。（笑）

内藤　以前は多くの委員が運営のみをやっていましたが、今はコース設定から裁定まで、全員で手分けしています。やって覚えることがスキルアップの早道で、失敗を恐れないことです。女子の競技は女性競技委員の手で実行しています。フォア・ザ・チームの精神ですよ。

田中　今年、女子倶楽部対抗が始まると、女子委員の多くは選手として出場します。競技を終えてそのまま競技委員として、次の会場へ向かうことも…。

家庭や仕事との両立は？

田中　大変ですよ。（笑）

内藤　ボランティアですから、ゴルフが好きでなければできませんね。

ルールズ・オフィシャルは？

内藤　まず受けることが大切です。勉強しますからね。いろいろな本を読み、暗記するために単語帳まで作って。

田中　昔からの委員は、何条何項までは覚えていません。大変でしたよ。

お2人の最近のゴルフは？

田中　下見の時は選手の気持ちになって、要所でボールを打ちますが、自分のラウンドとなると年に数回。若い頃は関東アマに出たくて、必死になってやりましたが……。

内藤　私は今年、日本シニアゴルフ選手権のルーキーイヤーです。〝日本タイトル〟を全部獲るのが夢なんですが……。（涙）

田中　競技委員会の役割りは我々に任せて、ぜひ、挑戦してください！

選手に望むことは？

田中　事前にローカルルールなどは通知しているのですが、ほとんどの参加者が読まないようです。つらいですね。

内藤　今日のスタートはどっちですか、と聞く選手もいますよ……。自分で調べろと言いますが。（笑）

面白いエピソードを。

内藤　前泊での食事や飲み代は割り勘です。私は飲んでいないのに、文句たらたらですよ。（笑）

最後に、競技委員としての喜びは？

田中　今日は運営も設定もよかったなーと、選手の声がちらっと耳に入った時は、疲れが吹っ飛びます。

内藤　天候に恵まれるだけでも、参加選手以上に嬉しいものです。

2010 KGA決勝競技 開催コース

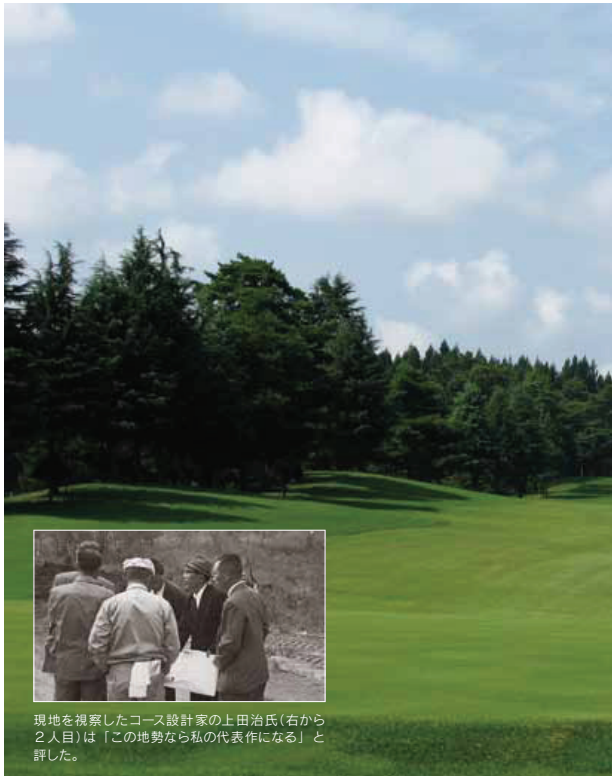
関東アマチュアゴルフ選手権
6月2日(水)～6月5日(土)

長岡カントリー倶楽部　東・西コース

新潟県長岡市深沢町2564
■TEL 0258-46-3131　■FAX 0258-46-6223
■開場　昭和41（1966）年8月
■設計　上田治

長岡CCは銘酒、名水、米どころにあり 6月には深緑に

上田治氏設計の東・西コースは、豪快にして雄大に展開する造形美。関東の強者たちとはいえ、大きなスロープやマウンド、深いバンカーの攻略は容易ではないはず。「ベントグリーンの芝目に要注意」とは地元ゴルファーやキャディーさんのアドバイスだが、傾斜の影響や景観による錯覚もありそうだ。周囲の松林は垂直に天に伸び、積雪に耐える。長岡は日本有数の豪雪地帯で、取材した2月中旬には積雪1メートル60センチにも達していた。



現地を視察したコース設計家の上田治氏（右から2人目）は「この地勢なら私の代表作になる」と評した。

遠く越後の山並みや、信濃川を望む理想的な地形にある。今は関越自動車道や新幹線利用で、首都圏から日帰り圏内。春が待ち遠しい。

今では駅から徒歩圏内の住宅地だが、仮開場式（写真）の頃は相模湾からの風を感じたという。船のマストを模したポールは往時を物語る。

関東女子ゴルフ選手権
5月20日(木)～5月21日(金)

相模カンツリー倶楽部

神奈川県大和市下鶴間4018
■TEL 046-274-3130
■FAX 046-275-9229
■開場　昭和6（1931）年9月
■設計　赤星六郎

戦後のゴルフ界復興に貢献した 相模CCの女性ゴルファーたち

KGA創立75周年の今年、相模カンツリー倶楽部で『関東女子ゴルフ選手権』の決勝競技が開催されるのは、長い歴史の一環でもあろう。昭和12年には（川奈GCに次いで）女性キャディー（写真）を登用している。そして戦後の日米ゴルフ交流は、相模CCの女性ゴルファーから始まったのだ。駐留米軍家族との親善マッチは昭和27年から31年まで続き、ゴルフ界全体の復活ムードを高めた。相模の女性会員たちへの称賛を、忘れてはならない。

開場から30年親しまれたクラブハウス（右）は、昭和60年から現況に。この年、関東倶楽部対抗で2連覇（通算6度目）を達成した。

関東グランドシニアゴルフ選手権
5月24日（月）～5月25日（火）

千葉カントリークラブ　野田コース

千葉県野田市蕃昌4
■TEL 04-7122-3531
■FAX 04-7124-1088
■開場　昭和29年(1954)10月
■設計　藤田欽哉

林間コースに刻まれる ゴルファーたちの想い出の数々……

03年に日本女子オープンが野田コースで開催され、当時は10代のアマチュアだった宮里藍、横峯さくら、諸見里しのぶさんらが活躍し、ジュニアゴルフ・ブームのきっかけとなった。この頃、小学2年で競技ゴルフに参加し始めた伊藤誠道君は、昨年の『関東アマチュアゴルフ選手権』で、最年少優勝記録（13歳・中学2年生）を大幅に更新した。今年の『関東グランドシニアゴルフ選手権』決勝競技は2日間、どんなドラマが生まれるのか。

2010 KGA決勝競技開催コース

樹木でセパレートされた林間は、高い壁のように聳える。

関東シニアゴルフ選手権
10月4日(月)～10月5日(火)

日高カントリークラブ　東・西コース

埼玉県日高市高萩1203
■TEL 042-989-1311　■FAX 042-985-3238
■開場　昭和36（1961）年1月
■設計　相馬正胤

林間コースは野鳥の楽園、そして大気浄化・温暖化防止の砦

半世紀の歴史を積み重ねたコースに、関東の強豪シニア勢が集う『関東シニアゴルフ選手権』決勝競技。その技量を正しく評価する日高カントリークラブの設定は言うまでもないが、特筆すべきは同倶楽部の環境貢献への姿勢だ。KGAでは「ゴルフ場は環境貢献エコ・パーク」の広報活動に取り組んでいる。ゴルフ場は年間230万世帯の、電気消費量で発生する二酸化炭素を吸収しているのだ。率先してエコ運動を実践する同倶楽部に拍手。

昭和5年末にC・H・アリソン氏(中央)が来場し、コースを称賛した上で改造点を指摘。赤星四郎氏(左)と藤田欽哉氏(右)が実施した。

関東倶楽部対抗
6月21日(月)

霞ヶ関カンツリー倶楽部

埼玉県川越市大字笠幡3398
■TEL 049-231-2181
■FAX 049-231-4528
■開場　昭和4（1929）年10月
■設計　(東)赤星四郎、藤田欽哉　(西)井上誠一

今日の競技ゴルフ隆盛の発信源となった世界の“KASUMI”

関東のみならず、我が国のゴルフブームは昭和32年10月に、霞ヶ関・東コースで開催された『カナダカップ』（ワールドカップの前身　左写真）から始まった。日本チーム（中村寅吉、小野光一）の優勝と中村君の個人優勝は、ゴルフ競技では初めてのテレビ中継でお茶の間に流れた。その後も多くの名勝負の舞台となった霞ヶ関カンツリー倶楽部に、『関東倶楽部対抗』決勝に出場する各倶楽部の旗が堂々と翻る。

開場当時のクラブハウス（上写真）の樹木は、まだ疎らだ。平成17年まで使われ、半世紀を経て新築された。樹木も見事な大木に成長。

ホールの随所に池が利いている。

関東女子倶楽部対抗
8月23日(月)

狭山ゴルフ・クラブ　西・東コース

埼玉県入間市下谷ケ貫492　■TEL 042-936-1321　■FAX 042-936-3249
■開場　昭和34（1959）年10月　■設計　小寺酉二、竹村秀夫(改造)、川田太三(改造)

新装なったクラブハウスに、関東女子倶楽部チームの華やぎ……

カナダカップを機に“第一次ゴルフ場造成ブーム”が起きた。狭山ゴルフ・クラブも半世紀前に、入間市郊外に誕生した。交通至便、地形は飛行場だっただけにフラット、設計は名手・小寺酉二氏(改造・竹村秀夫氏、川田太三氏)と、好条件に恵まれていた。会員もこよなくコースを愛し、その姿を“良家の子女”とも喩える。今年からスタートする『関東女子倶楽部対抗』決勝競技の会場としてふさわしい。新しい歴史の1頁を、ここで記す。

関東ジュニアゴルフ選手権
7月28日(水)～7月29日(木)

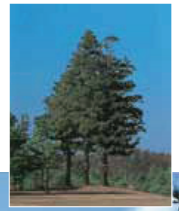
袖ヶ浦カンツリークラブ　袖ヶ浦コース

千葉県千葉市緑区辺田町567
■TEL 043-291-1111　■FAX 043-291-5785
■開場　昭和35（1960）年11月　■設計　和泉一介

プロ競技でお馴染みのコースには隠れた“名所”が点在している

極端に言えば、会員制倶楽部は会員だけが大切に守る“お宝”や、攻略ルートがあっていい。袖ヶ浦コースの16番ホールの御神木を越えるかで、会員同士の話しが尽きないように。ベストショットが樹木の陰になろうと、ゲストに“ローカルナレッジ（土地勘）”がなかっただけで、アンフェアではない。『関東ジュニアゴルフ選手権』決勝競技に出場するジュニアの皆さんが、コースや倶楽部の伝統を知ると、プレーの幅がより広くなるだろう。

御神木は樹齢300年を超える三本杉。18番ホールの池（下写真）とともに、数多くの名手の妙技を見続けてきたことだろう。



インコースは池が攻略のポイントで、ホールアウトすればクラブハウスもまた、水をテーマにしていて寛げる。

関東女子ミッドアマチュアゴルフ選手権

10月18日(月)～10月19日(火)

浜野ゴルフクラブ

千葉県市原市永吉937 ■TEL 0436-52-3111 ■FAX 0436-52-0312
■開場　昭和59 (1984)年12月 ■設計　井上誠一

曲線の美に潜むバラの棘。攻めるか守るか二者択一の決断

コース設計家・井上誠一氏の最晩年の傑作。随所に池を配した戦略性の高いコースで『関東女子ミッドアマチュアゴルフ選手権』決勝競技に出場する選手たちは、どんな妙技を披露してくれるのだろう。『富士通レディース』が開催されていた頃は、最終18番ホール・パー5を、2打で狙える女子プロ選手はほとんどいなかったが……。

井上氏はコースの完成を見ることなく他界されたが、きっと天国で観戦されているだろう。(享年72歳)

東京のベッドタウンとして、急速に都市化の進む相模原市にあって、36ホールのコースはオアシスのように守られている。もともとの自然林を巧みに活かした成果だろう。

関東アンダーハンディキャップゴルフ選手権

11月1日(月)

相模原ゴルフクラブ

神奈川県相模原市大野台4-30-1
■TEL 042-776-8811
■FAX 042-754-1211
■開場　昭和30 (1955)年4月
■設計　小寺 酉二(東)、村上 義一(西)

名手の足跡の残る相模原GCで競技ゴルフの素晴らしさを体験しよう！

昭和33年の関東オープンを初め“日本”と冠される競技を9回開催している。07年の日本オープンには、当時高校1年生の石川遼君が出場し、記録的な数のギャラリーが押し寄せた。『関東アンダーハンディキャップゴルフ選手権』は、JGAハンディキャップを取得して一定の条件さえ満たせば、ノンクラブメンバーでも参加できる。決勝競技の会場となる相模原ゴルフクラブへの道が開かれている。今年度KGA主催の最終戦に、ぜひ挑戦を！

関東ミッドシニアゴルフ選手権

10月12日(火)～10月13日(水)

熊谷ゴルフクラブ

埼玉県熊谷市石原1431
■TEL 048-521-5411
■FAX 048-525-8033
■開場　昭和37 (1962)年4月
■設計　間野貞吉

まさに「アット・ホーム」の和み会員の心に育てられた

ガイドブックには荒川の河川敷コースとあるが、半世紀を経て大きな樹木に覆われた現況は林間コースだ。立地条件の厳しさは自然相手の治水・灌漑対策に加え、河川法等の制約も課せられる。困難を乗り越え、よくぞここまでに育てたと称賛したい。各ホールには特定の植栽が配され、四季折々の花が絶えない。これも品格ある会員達の、優しい心の現れだろう。『関東ミッドシニアゴルフ選手権』決勝は、秋のベストシーズンに開幕。

森と池の配置が見事。樹木も天を突く勢いに成長した。

モダンなクラブハウス棟(左)は、海の日射しを取り入れて開放的。敷地内にはミュージアムも併設している。

関東ミッドアマチュアゴルフ選手権

9月28日(火)～9月30日(木)

浜松シーサイドゴルフクラブ

静岡県磐田市鮫島 4119-1
■TEL 0538-32-7281 ■FAX 0538-32-8284 ■開場　昭和41 (1966)年10月

夏は爽やかな海風の下で、冬は温暖な遠州灘の日射し

遠州灘の砂丘地帯に展開する林間コース。自然の湖面2万500坪の鮫島池を巡るアウトコースと、松の巨木に囲まれたインコース。その完成度の高さは、競技でもリゾートの楽しみでも強烈な印象(メモラビリティー)として残るだろう。『関東ミッドアマチュアゴルフ選手権』決勝は、今年から3日間競技となる。海風とティフトン芝を制するのは誰か？

斬新なデザインのクラブハウスも居心地がよく、ランチは野外レストラン『パインテラス』もおすすめ。

第59回 KGA
グリーン研究
講習会

コース・レート査定の必要性と倶楽部としての準備について

撮影／増田收（KGA広報委員）

❶ロールの修正

❷高低差の修正

KGAコース・レート委員会では昨年度、96コースの申請・査定を実施した。査定が急増している理由は、再査定の急増にある。内訳は新規査定6、再査定72、机上査定16。

その査定方法も、以前よりホールの難易度を、シビアに評価するように変わっている。その決め方と倶楽部側の対応策を『第59回KGAグリーン研究講習会』で学んだ。

コース・レートの認定期間は、15年と定められている。一部の倶楽部では、再査定による数値の低下を危惧して躊躇されるようだが、それはまったくの誤解である。

「コース・レートの数値は、コースの良し悪しを決めるものではありません。ゴルファーの技量に応じてJGAハンディキャップを取得する際、全国一律でコースの基準となる数値です」（岡田光正理事）

新規査定とは初めてコース・レート取得する場合。再査定は査定後15年以内で、コースを改造した場合。机上査定とは査定後15年以内で、コース改造の度合いが少ない場合の図面による査定。査定後15年以上経過した場合は再査定が必要で、連盟からの通知後、申請手続きをしなければコース・レートは無効となる。

査定の方法は、マニュアルで決められている。18ホールスループレー（トップスタート）、査定時期は平均的なコースコンディションの3月下旬から12月上旬まで。実際にコースを確認する査定委員はスクラッチプレーヤー（それに準ずる技量の者）で、KGAコース・レート委員会は岡田委員長の下に男子20名、女子6名で構成されている。

コース・レート数値の算出方法は、『JGAコースレーティング・システム全国統一査定実施要項書』に基づいて集計される。概略は実測図面を基に、スクラッチ・プレーヤーがプレーする時のラウンドを念頭において、各ホールの査定距離と難易度を査定して、計算方式に基づいて決定される。

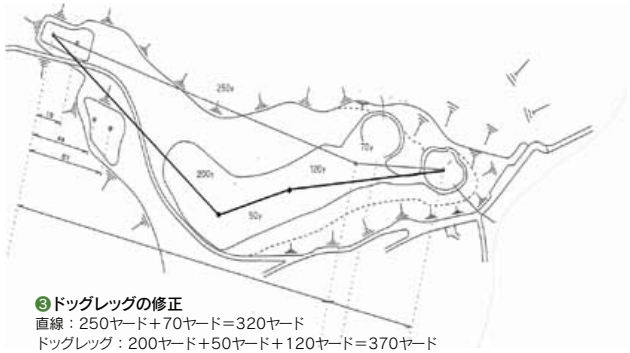
査定距離の計算には、7項目の修正基準がある。

①ロールの修正（ランディングエリアのボールの転がりを修正、落下地点の傾斜、年間を通してのFWの状態）。

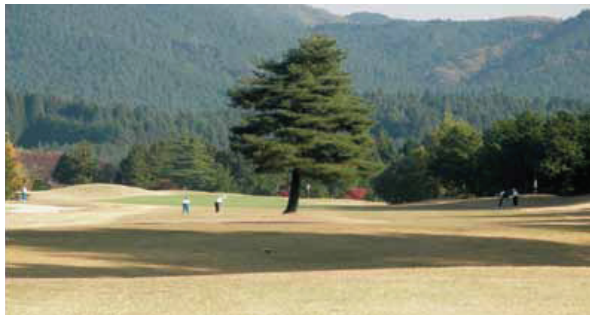
②高低差の修正（コース全体の打ち上げ、打ち下ろしの状況）。

③ドッグレッグの修正（ショートカットが可能かは査定委員の判断）。

④障害によるフルショットとコントロールショットの修正（レイアップが可能かは査定委員の判断）。



❸ドッグレッグの修正
直線：250ヤード＋70ヤード＝320ヤード
ドッグレッグ：200ヤード＋50ヤード＋120ヤード＝370ヤード



❹障害によるフルショットとコントロールショットの修正

⑤風の影響に対する修正、**⑥高地**に対する修正、**⑦総合判断**による修正。

難易度については、平成6年から重視する方向に改められた。これも10項目あり、10点法で評価される。

項目を列挙すると、**①地形**の複雑さ、**②フェアウェイ**の広い狭い、**③ラフ**からのリカバリー、**④OB**、**⑤ウォーターハザード**、**⑥樹木**、**⑦バンカー**、**⑧グリーンへのアプローチ**、**⑨グリーン周辺のリカバリー**、**⑩グリーンの表面と状況**。

こうして査定委員のデータを計算式で算出した後、当日に小委員会を開催し、KGAコース・レート委員会に提出する数値を決定する。その数値を委員会で検討し、コース・レート数値を決定する。倶楽部には事務局より書面で通知される。

コース側の準備はすべて『査定指示書』に基づくが、これも容易なことではない。

査定時に必要な実測図の作成（平面図と断面図）、それを基にしたティーの基準点の設置や、第一IPと第二IPの設置、芝の刈り高などの整備まで多岐にわたる。

当日の講師、大久保昌氏はコース設計や改造に関わった長年の経験から、査定にあたってのコース側の経済的、時間的節約の解決案を提示された。

「ホール毎の平面図、断面図と各ティーの距離表が必要です。現況地形図については、身近な市町村都市計画課に『都市計画基本図』または『地形図』があり、簡単に入手できます。そこから専門家に依頼すれば、経費は少なくて済みます」

もちろん大久保氏の講演テーマは右記のヒントではない。

①コース・レートを基にした、ハンディキャップ制度そのものの問題点（名誉ハンディ、失効しないハンディ等）

②レーティングとコース設計のコンセプト（プレイアビリティー）。

③スコアカードとヤーデージの違い。

④飛距離を考えないティーの使用。

どれも問題だが、日・米・英のハンディキャップ制度の違いと、その基礎になるコース・レートこそ、今後の大きな課題だろう。

1月27日、銀座東武ホテルにて開催。

岡田光正KGA理事　コース・レート委員会委員長（左）
大久保 昌グリーン委員会参与

岡田光正KGA理事
コース・レート委員会委員長
（株）山長会長。78年にコース・レート委員会委員に就任し、09年よりKGA理事、コース・レート委員会委員長。コース・レート査定歴は30年以上。

大久保 昌グリーン委員会参与
千葉大園芸学部を卒業し、おおくぼジー設計社長。日本芝草学会監事、日本ゴルフコース設計者協会名誉理事。コース設計、改造に多くの実績がある。

Strokes

KGAトピックス

石川遼君の『ジュニア育成基金』がKGA他団体へ寄贈される

今年も『ハウス食品石川遼ジュニア育成プロジェクト』より、ゴルフ諸団体に対して積み立て金が贈られた。

昨年度賞金王の石川君が、ツアー競技において獲得したバーディーとイーグル数に応じて、基金を積み立てたもの。その総額は386万円になり、KGAでは富田浩安副理事長、大鷲ジュニア育成委員会委員長が出席して、2月28日に贈呈の会が行われた。

石川遼君はKGAジュニアスクールで学び「ゴルフで得たものはゴルフに返す」という主旨で、ジュニア育成に貢献している。当日は石川君の始球式に続いてレッスン、カレーパーティーと、ジュニアにとっては思い出に残る1日になっただろう。

多忙の最中でも、終止笑顔の石川君。

富田副理事長に手渡された。

参加したジュニアたちも、次の"ハニカミ王子"に？

『関東女子倶楽部対抗』これが優勝盃です！

今季からスタートする『関東女子倶楽部対抗・報知杯』の、優勝盃が完成した。決勝競技は8月23日(月)に、狭山ゴルフ・クラブで開催。歴史的な第1回大会で、この優勝盃を手にするのはどの倶楽部か？　華やかにして激烈な競技を前に、すでに各チームの準備は始まっている。

関東女子倶楽部対抗予選各ブロックの第1位倶楽部に渡されるペナント。

関東女子倶楽部対抗競技の『歴代優勝者盾』。優勝倶楽部はこの盾に順次名前を記され、その栄光を称えられる。

撮影／塚越克一(KGA広報委員)

New Member Golf Club

新・規・加・盟・倶・楽・部・紹・介

グリーンヒル長岡ゴルフ倶楽部

壮大な景観に向かって打ち込む、刺激的かつ繊細な魅力のコース

新潟県のほぼ中央にある長岡市の東側に位置する当倶楽部は、好アクセスで好景観なメンバーコースです。

お車は関越自動車道で、新潟方面からの方々は中之島見附ICより20分、東京方面からの方々はスマートIC越路より7分です。上越新幹線をご利用なら、長岡駅より10分と交通利便性に富んでおります。長岡市街を眼下に、弥彦山や佐渡ヶ島も見渡せる、広大かつ素晴らしい景観を味わいながら、ゆったりとプレーを楽しんでいただけます。

コースは雄大な自然をフルに生かして設計されたアメリカンコース。各ホールに巧みに配置されたハザードや、起伏のあるフェアウェイ、グリーンがプレーヤーの戦略意欲をかきたてるレイアウトとなっています。

レストランも長岡市街を一望でき、地元の食材をふんだんに使用し、季節毎に楽しめる料理をご堪能いただけます。また、結婚式や各種イベントも盛りだくさんで、8月には全国でも有名な〝長岡花火〟も、クラブハウスからの壮大な夜景とともに、お楽しみいただけます。

スタッフ一同「アットホームなサービス」を、ご来場のすべてのお客様に、ご提供させていただいており、ご満足いただけるおもてなしをしてまいります。

18番ホールからクラブハウスを望む。

6番ホールの雄大なパノラマ。

正会員
住所／〒940-0822　新潟県長岡市柿町4221
電話／0258-23-8088
FAX／0258-23-8077
開場／平成12年7月1日
理事長／丸山　智
支配人／樋熊　隆治
ウェブサイト／www.greenhill-nagaoka.co.jp/

サンコー72カントリークラブ

高崎駅から数分、雄大なスケール、どのホールに立っても気分は最高

高崎が関東平野で交通の要衝であることは周知の通りで、そこに72ホールの雄大な『サンコー72カントリークラブ』があります。高崎駅や吉井ICからすぐという交通の至便さから、関東一円はもとより、新潟や長野からのお客様も絶えないゴルフ場です。

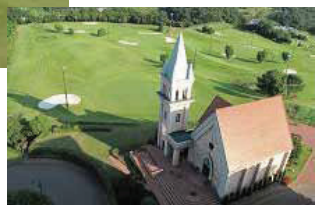
9ホールが7コースあり、フラットな林間コースでありながら、適度に砲台グリーンやバンカーが配され、正確なコントロールショットが要求されます。弛まぬリニューアルがなされ、毎週プレーしても各コースの癖を見抜けず、若者からお年寄りまで十分楽しめます。

パーティールームを各種ご用意し、420人まで収容できる宴会場は、液晶プロジェクターと大型スクリーン、大迫力の音響システムがセットされ、大型コンペはここで開催するとスムーズです。正面にある教会で挙式されたカップルの、結婚披露宴会場としてもご好評をいただいております。

ストレスの多い昨今、癒しを得たいというお客様のために、大パノラマを眺められる8階建て大理石造りの、豪華ホテルを併設しております。ゴージャスなデラックスルームやファミリールームがありますので、ゴルフの前後でご利用ください。新幹線でご来場のお客様には、クラブと高崎駅間に送迎バスを運行しております。

季節に合わせた料理をご提供するバイキングの昼食は多くのお客様から喜ばれ、中でもカレーと自家製のうどんは好評です。ホテルに泊まっての食事とゴルフの楽しみで、リゾート気分は最高になるでしょう。

将来を嘱望されるプロの育成にと、ジュニア競技に協力を惜しまず、コースを提供しています。今、絶好調の石川遼プロが、ここで自信を得て賞金王を達成していることや、日本を代表する有名プロゴルファーが、ここで実績をあげられていることは有名です。プロの登竜門とも考えられる『サンコー72カントリークラブ』で、ゴルフを堪能されてはいかがでしょうか。



正会員
住所／〒370-2131
群馬県高崎市吉井町岩崎2179
電話／027-388-2800
Fax／027-388-2072
開場／昭和47年9月15日
理事長／寺本　欣一
支配人／青木　文雄
ウェブサイト／www.sanko72.com

足利城ゴルフ倶楽部

つづまやかな日本の伝統美、18の個性、心からのおもてなしがコンセプトです

足利市は、足利氏とゆかりがあり、風光明媚なことから東の京都と呼ばれ、古くから室町文化の「つづまやかな日本の伝統美」が宿ってきました。近代になると繊維産業が隆盛し、全国から多くの人々が訪れる中「心からのおもてなし」が育まれてきました。

そんな足利市にある、足利城ゴルフ倶楽部は「つづまやかな日本の伝統美」を生かした庭園美に溢れ、独立して展開する「18ホールの個性」と数々の罠がゴルファーを奮い立たせます。そして私たちの「心からのおもてなし」とともに心を遊ばせ、和む時をお過ごしいただけます。

庭園美が広がるコースには、日本の伝統的庭園技法により、四季の花々と独立して展開する18ホールが、端正にデザインされております。この18ホールの個性と、コースの随所に散りばめられたアンジュレーションやハザードは、挑戦者の意欲を駆り立て、スコアメイクのポイントとなる、アウトコース5番・7番、インコース13番、そして池に囲まれたグリーンのフィニシングホール18番では、笑顔とため息を交錯させます。

クラブハウスは木々の緑と鮮やかなコントラストを見せる大きな切妻式屋根と白壁の外観で、古都足利の風格をシンボライズしており、屋内は日本文化の質素な美と、白木の木肌が訪れる人に郷愁を抱かせます。ビフォーからアフターゴルフまで、お仲間同士のコミュニケーションと私たちのおもてなしで、格別なひとときをお過ごしいただけます。

都心から約90キロメートル、自然と歴史に彩られたまち足利。その北に位置する当倶楽部へのアクセスは、東北自動車道、佐野・藤岡ICから40分。鉄道では東武伊勢崎線、浅草駅から急行りょうもう号で70分の足利市駅下車、駅からクラブバス(予約制)で20分です。

正会員
住所／〒326-0061
栃木県足利市田島町字坊之入
2127-1
電話／0284-44-1311
Fax／0284-44-1314
開場／昭和60年10月3日
理事長／菊地　義治
支配人／清水　雅巳
www.ashikagajo.com

グランドスラムカントリークラブ

プレーは豪快に飛ばしと緻密な戦略でアフターゴルフはゆとりの空間で

三郷ICから常磐自動車道で日立南太田ICまで60分、インターを降りて15分の常陸太田市の南東部に位置する当クラブは、夏は湿度が低く爽やかで、冬は北風を遮る山塊と太平洋の暖流で暖かく、安定した天候に恵まれた40万坪の雄大なゴルフクラブです。

杉本 英世 設計のコースは、穏やかな丘陵地に展開する1グリーンの27ホールズ。多くのゴルファーを魅了するなだらかな起伏の中に距離を取り、限りない戦略性を秘めたアメリカンスタイルのコースに仕上げられています。

名物ホールは西コース3番ホール、右ドッグレッグ497ヤード(レギュラーティーより)のロングホールで、右サイドの池(キャリーで250ヤード)をクリアできれば2オンも可能ですが、左サイドのフェアウェイに逃げると、250ヤード以上残ってしまう戦略性と勇気が必要なホールです。

クラブハウスでは来場された方全員に、くつろぎのひとときを堪能していただきたい。それがクラブハウスのポリシーです。2千坪の威風堂々としたたたずまい、眺望が自慢のメインダイニング、また、プライベートな集まりから、300名様の大パーティーまで、多目的にご利用いただける和風・洋風あわせて13室のコンベルームを用意しております。プレーのみならず、アフターゴルフを存分にお楽しみいただけます。

正会員
〒313-0026
住所／茨城県常陸太田市田渡町823-11
電話／0294-74-4111
Fax／0294-74-3270
開場／昭和60年7月20日
理事長／織田　芳彰
支配人／佐藤　義昭
ウェブサイト／www.pacificgolf.co.jp/grandslam/service/index.asp

富士見ヶ丘カントリー倶楽部

毎日がワクワク　ドキドキ
楽しいゴルフを提案します

東名高速は清水ICより30分、富士川スマートより20分。将来は第二東名から5分とアクセスが良く、冬でも温暖な丘陵コースです。

コース内の随所から富士を仰ぎ見ることのできる丘陵地で、広い敷地にぜいたくに18ホールをレイアウトしてあります。ホールとホールの間に十分間隔をとっていて、ゆったりした印象にしています。

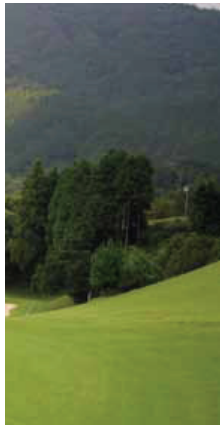
アウトコースは男性的なホールが続き、距離も長く豪快なプレーをお楽しみいただけます。

インコースはゆるやかな打ち上げや打ち下ろしのホールが多く、戦略性の豊かなコース内容となっています。

「毎日がワクワク　ドキドキ、楽しいゴルフを提案します」をコンセプトに、毎月イベントホールがあり、オープンコンペに併せた賞品があたります。その他のイベントもご用意しております。

レストランでは毎月、その季節にあった食材を使ったメニューをご用意しています。

従業員一同、お客様に楽しいゴルフライフを送っていただけるよう、日々勤めております。



正会員
住所／〒424-0301
静岡県静岡市清水区宍原1456-2
電話／054-394-0611
FAX／054-394-0537
開場／昭和53年5月17日
理事長／齊藤　寛
支配人／林　昭臣
ウェブサイト／www.fujimigaoka.co.jp/

東富士カントリークラブ

富士山麓の南斜面 〝夏涼しく冬暖かい〟
開場から42年の歴史あるゴルフ場

東京ICから75分の好アクセスで都会の喧騒を忘れさせてくれる、自然味溢れるゴルフ場です。間近に雄大な富士山がそびえ、コース全体を歳月を重ねた広葉樹林が包み込み、「春の新緑」「夏の深緑」「秋の紅葉」と、季節ごとに趣の異なる景色の中でゴルフプレーを充分に堪能できます。

コースレイアウトは、ティーインググラウンドからグリーンを確認できる戦略性の高いホールが多く、時には長い距離をアグレッシブに攻めたり、高速グリーンを緻密に読み切る技術が要求されます。自然の地形を生かしたレイアウトは、アウトコースとインコースでまったく違う様相を見せますので、穏やかなアウトコースと変化に富むインコースをそれぞれお楽しみください。〝名物ホールの14番〟のティーインググラウンド（標高670㍍）に立てば、雄大な富士の姿を正面に箱根連山までの、大パノラマの中でティーショット！　思い出の一打となります。

また、接客サービス面においては、ホスピタリティー（おもてなしの心）溢れる接遇をすべての部門で取り組んでいます。〝笑顔の挨拶〟を基本にきびきびとした動きで〝レスポンスの良い対応〟を心掛け、ご来場のお客様すべての方が、満足の一日を過ごして頂けるよう日々努力を重ねております。

会員様には姉妹コースの富士国際GCとの相互利用優待を実施して好評を頂いており、さらには同じ三菱地所系列ゴルフ場の東北・仙台にある泉パークタウンGCとも交流があります。

スタッフ一同〝おもてなしの心〟でお出迎えさせて頂きますので、皆様お誘い合わせの上ご来場くださいますようお願い申し上げます。

正会員
住所／〒410-1308　静岡県
駿東郡小山町大御神604-3
電話／0550-78-0121
Fax／0550-78-0122
開場／昭和42年10月1日
代表取締役／石津　保彦
支配人／江藤　喜久雄
ウェブサイト／www.fuji-golf.jp

児玉カントリー倶楽部

解放感のある西コース、
攻略多彩な南コース、
戦略性の高い東コースの27ホールを満喫

関越自動車道の練馬より60分と好アクセスの当倶楽部は、埼玉県本庄市にある市川グループ8番目のコースとしてオープンしました、本格アメリカンスタイルのコースです。

『群書類従』を編纂し、わが国の学問史上に巨跡を残した江戸時代の盲目の国学者、塙保己一の生誕の里として知られております。

関越自動車道・花園ICより25分、本庄児玉ICより15分と、きわめて交通至便な環境に位置することから、都心からのリピーターも多く、また上越新幹線の本庄早稲田駅が開業してからは、遠方からのお客様も増えております。

クラブハウスは南ヨーロッパ風の明るさをもった外観を活かしながら、アメリカンスタイルのコースに合った、ジョージア風の緑と白の端正なクラブハウス。落ち着いた中に優雅な雰囲気を漂わせ、癒しの空間がここにあります。

コースは広大な敷地にレイアウトされた、なだらかな丘陵コース。ゆったりとした開放感のある西コース、ドッグレッグを各所に配し多彩な攻略を楽しめる南コース、正確なショットが要求される戦略性の高い東コースの27ホールを擁しており、四季折々に変化する景観と、緑豊かな自然・澄んだ空気の中で、まさに気分爽快なラウンドをお約束致します。

自然との調和を大切にし、造形の美しさを徹底的に追及したハイクオリティーなコースで、ゆとりのあるプレーを満喫してください。

レストランは、リーズナブルなプレーフィーからは想像し得ないほど品数も豊富なメニューで、料理も美味しいと評判です。

また、各種プラン・イベントも盛りだくさん、サービスも充実しております。そして隅々まで届く「感謝の心」、「ご来場のお客様すべてを笑顔にする」、この精神で皆様のご来場を、心よりお待ちしております。

正会員
〒367-0213
住所／埼玉県本庄市児玉町秋山3012
電話／0495-72-7511
Fax／0495-72-7300
開場／平成6年10月30日
理事長／中野　忠史
支配人／松沢　央（副）
ウェブサイト／www.kodama-cc.jp/

第62回通常総会
「魅力あるＫＧＡ」を目指して
所信表明

平成21年度の具体的な結果

第62回通常総会の開催にあたり、平成21年度の事業活動結果と平成22年度の方針につきまして述べさせて頂きます。昨年度は理事長就任にあたり「魅力あるＫＧＡ」をテーマに掲げて、五つの課題をお話し致しました。それに沿った、平成21年度の具体的な結果につきまして、まず、ご報告申し上げます。

一つ目の課題である「**競技団体として益々重要な競技に関する改善事項**」に関しましては、関東アマの開催方式の変更と、関東女子倶楽部対抗競技の開催を平成22年度より実施する事を決めました。

また、競技委員の競技の管理・運営能力の資質向上を図るために「ＪＧＡルールズ・オフィシャルテスト」を活用し、ルールに関するスキルアップを図りました。

二つ目の課題である「**各都県での代表者会議の充実事項**」につきましては、常務理事会を通して、各都県での定期的な代表者会議の開催をお願いし、良い結果が出ております。

三つ目の課題である「**広報機能の強化事項**」につきましては、ＫＧＡニュースの編集・企画を充実し、名称も「ＫＧＡゴルファーズニュース」に変更致しました。また、メディア交流会を実施し、メディアとの関係づくりを促進致しました。

四つ目の課題である「**加盟倶楽部へのサービス機能の強化事項**」につきましては「ジュニア ゴルフ スクールマニュアル」を作成致しましたので、ジュニア育成活動に役立てて頂く事により、地区内でのジュニア育成の活性化に繋がる事と考えます。

五つ目の課題である「**各都県アマチュア団体との連絡強化の事項**」につきましては、基本的にはＪＧＡの方針に添って対応を考えていく事になりますが、各都県アマチュア団体が抱えている問題に対して、体協委員会を中心に協力を進めてまいりました。

本年度の10項目の検討課題

次に、本年度の方針でございますが、平成21年度から引き続き「魅力あるＫＧＡ」の実現に向け、平成22年度も活動をしてまいりたいと存じます。事業計画として10項目の検討課題を掲げましたが、①・③・④・⑤・⑨は、昨年からの継続でございます。⑥・⑦・⑧につきましては、ＪＧＡの進め方を把握し、長期的な計画の下で進めたいと考えます。⑩につきましては、引き続き検討を考えております。

②のジュニア育成に関する課題つきましては皆様もご承知の通り、昨年10月初め、コペンハーゲンで開催されましたＩＯＣ総会におきまして、ゴルフがオリンピック実施競技として採用される事が決まり、２０１６年リオデジャネイロ大会より参加する事になります。出場選手は各国のベストプレーヤーとなりますので、勿論プロ選手になります。我が国におけるゴルフの窓口には、ナショナル フェデレーション（ＮＦ）としまして、ＪＧＡが務めます。そして、日本オリンピック協会（ＪＯＣ）より選手を派遣する事になります。

オリンピックは日の丸を背負った競技であり、メダル獲得という大目標ができました事から、ゴルフ界も６年後に向けて若い選手の強化に努める事になります。

ジュニアのナショナルチームは、ＪＧＡが育成する事になりますが、その前段階での選手の発掘は地区連盟の仕事であり、ＫＧＡと致しましても富田副理事長を座長として、特別なプログラムを立ち上げ、本年度中に具体的な実施計画を考える事に致しました。人気の高くなっております小学生の中から、将来のオリンピック選手を育てようという考えでございます。

本年度も事業推進にあたり、皆様のご協力とご支援を心よりお願いを申し上げます。

平成22年2月19日

関東ゴルフ連盟理事長　**竹田恆正**

平成22年度 事業計画

（自 平成22年1月1日 至 平成22年12月31日）

■魅力あるＫＧＡ実現を目指して

ＫＧＡは「魅力あるＫＧＡ」実現のため、中期的な計画を明確にし、目標を達成するための活動を行う。

検討課題は次のとおり。

①主催競技の活性化並びに管理・運営に関する課題
②ジュニア育成に関する課題
③加盟倶楽部へのサービス向上に関する課題
④広報機能強化に関する課題
⑤代表者会議等内部組織強化に関する課題
⑥ゴルフ場の環境に関する課題
⑦ＪＧＡハンディキャップ改訂に対応する課題
⑧ＪＧＡ競技者登録制度発足に対応する課題
⑨ＪＧＡに合わせた都県アマチュア団体との連携強化に関する課題
⑩関東オープン再開に関する課題

現在、ＫＧＡを取り巻く環境はめまぐるしく変化をしており、新規事業活動は容易ではない。平成22年度は従来の活動の充実を図りながら、中期的な課題達成の準備を行う年とする。

■創立75周年記念事業

近年、日本経済をはじめゴルフ界を取り巻く環境が大きく変化している中で、創立75周年を迎える本年度を一つの節目ととらえ、創立60周年に編纂された記念史以降激動の15年間の活動記録を編纂しまとめると共に、加盟倶楽部に対し連盟の活動目的を改めて伝え加盟価値を高め連帯感を醸成する。

(1)ＫＧＡ75年史の編纂

平成22年11月発刊。創立60周年以降15年間を中心に、その間の活動内容と記録を取りまとめる。加えて、連盟創立時の状況を再調査しその内容をまとめる。競技記録については75年間分をデジタル化して保存する。ＫＧＡ７５年史は、記念品として各加盟倶楽部及び各関係者へ配布する。

(2)記念式典・パーティーの開催

平成22年2月19日（金）、グランドアーク半蔵門　富士西の間。ＫＧＡ創立期の映像を作成する。

■各分科委員会

①競技に関する事業

「競技は選手のためにある」という事を

撮影／増田收（ＫＧＡ広報委員）

再確認して競技の管理・運営を行う。
平成22年度は、関東アマチュアゴルフ選手権競技の開催方式を変更し新たなるステージへスタートさせる。
関東女子倶楽部対抗競技をスタートし、競技を通じて女子アマチュアゴルファーの親睦を図る。
関東ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝競技を3日間54ホールへ、関東グランドシニアゴルフ選手権決勝競技を2日間36ホールへ拡大し両競技の充実を図る。
委員の競技に関する管理・運営の力量を向上し、選手の満足度と競技の質を向上させる。KGAルールズオフィシャル制度を構築し、連盟内における競技に携わる委員及び加盟倶楽部の競技委員を対象とした、ルールに関するスキルアップとルール担当者の知識向上を目的に、制度を作り上げる。

②ジュニア育成に関する事業
JGAジュニア会員の特に小学生の年代の増加に伴う、適切な育成プログラムを作り上げる。
「チーム・KGA・ジュニア」の制度と体制作りを行い、将来の日本ゴルフ界を代表するジュニアゴルファーを発掘し、技術及び精神面の総合的な育成を図り、JGAのナショナルチームに選ばれるゴルファーを育てる。

③広報活動に関する事業
情報ネットワークを構築し、情報の伝達を迅速にして加盟倶楽部や競技参加選手とKGAとの関係を深める。
マスコミとの関係を強化する。

④総務関係に関する事業
都県倶楽部代表者会議を定期的に開催し、加盟倶楽部に対してKGAでの決定事項を報告し、情報の共有化を図る。

■主催競技

関東アマチュアゴルフ選手権競技は、本年度より新たなステージへ向かう事になる。開催方式が変更され、参加資格のJ-sysで取得したJGAハンディキャップが9・9より18・0に変更になった事と、ブロック大会を開催する事とした。
競技の視野を拡げるとともに、競技の楽しさを技量レベルで経験する事ができる。効果としては、予選競技参加者の増加、J-sys登録者の拡大が図られ、関東アマチュアゴルフ選手権競技の発展が期待される。
次に、加盟倶楽部の要望により関東女子倶楽部対抗競技がスタートする事になった。本年度の各都県ブロック予選競技には170倶楽部の参加を予測しているが、3年後には200倶楽部以上の参加を期待している。
また、関東ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝競技が2日間36ホールから3日間54ホールへ、関東グランドシニアゴルフ選手権決勝競技が1日18ホールから2日間36ホールに変更にされた。

第62回 通常総会議事録

日時／平成22年2月19日(金)午前10時
場所／グランドアーク半蔵門　富士東の間

竹田理事長が議長になり、加盟505倶楽部中、委任状を含め294倶楽部の出席となり、適法に成立した旨の報告の後、議事録署名者として、小宮山義孝常務理事、岩宮浩理事を指名し、総会の開催を宣言した。

決議事項

■第1号議案

「平成21年度事業報告」並びに「一般会計・特別会計収支決算(案)」の承認の件

議長の指名により、事務局より活動内容及び決算項目につき説明がなされ、一般・特別両会計の決算報告の後、近藤監事の監査報告がなされ、原案通り承認された。

■第2号議案

「平成22年度事業計画」並びに「一般会計・特別会計収支予算(案)」の承認の件

議長の指名により、髙橋副理事長より平成22年度を起点として1都10県のゴルフ活性化を推進する予算編成の基本方針並びに一般会計・特別会計の説明及び、創立75周年記念についての具体的な報告がなされた。一般会計・特別会計の予算案については事務局より報告がなされ原案どおり承認された。

■報告事項

(財)日本ゴルフ協会「平成21年度事業報告及び決算報告」並びに「平成22年度事業計画及び収支予算」に関する件

議長の指名を受け、事務局より次の報告がなされた。「平成22年度事業計画及び収支予算」は、(財)日本ゴルフ協会理事会において承認され、加盟倶楽部に送付済であることの報告がなされた。また、「平成21年度事業報告及び決算報告」は、(財)日本ゴルフ協会理事会終了後に送付される予定であることの報告がなされた。

平成21年度 第3回常務理事会 議事録

日時／平成21年11月20日(金)　正午
場所／グランドアーク半蔵門　和の間
出席者／竹田理事長、髙橋・富田両副理事長
相澤、伊藤、小宮山、齋藤、佐藤、篠崎、志村、相馬、塚原、内藤、廣幡、宮坂、渡邉各常務理事

定刻、竹田理事長が議長を務め開会を宣した。事務局より理事長、副理事長、常務理事16名中、出席者16名となり、適法に成立した旨の報告の後、議事録署名者として、内藤、廣幡両常務理事を指名し順次議題審議を行った。

討議及び決議事項

■承認事項

1・加盟審査に関する件

(1)加盟審査倶楽部について

「グランドスラムカントリークラブ」(茨城県)
塚原常務理事(ザ・オーシャンゴルフクラブ)、スプリングフィルズゴルフクラブの推薦を受け、平成22年1月1日付での正会員への加盟が承認された。
「平成倶楽部鉢形城コース」(埼玉県)
髙橋副理事長(日高カントリークラブ)、ユニオンエースゴルフクラブの推薦を受け、準会員への加盟が承認された。

(2)退会倶楽部について

平成20年、21年度の年会費未納倶楽部「ルーセントカントリークラブ」(新潟県)、「サンライズカントリークラブ」(茨城県)、「セント・フィールズゴルフクラブ」(茨城県)について事務局より報告があり、来る平成22年1月14日(木)に開催される第4回常務理事会において退会の勧告を行う事が承認された。

2・75周年記念事業に関する件

(1)総務委員会に係わる件

総務委員長小宮山常務理事より、75周年記念事業についての説明がなされ、式典開催の承認がなされた。式典会場及び構成・招待客等の詳細は、総務委員会と事務局にて検討することが確認された。

(2)広報委員会に関する件

広報委員長塚原常務理事より、75年史の編集状況の説明がなされ、平成22年11月発刊に向けての活動状況が確認された。

3・平成22年度関東アマチュアゴルフ選手権開催方式変更に関する件

競技委員長内藤常務理事より、資料に基づき説明がなされ、開催方式変更の承認がなされた。主な討議内容は次記の通り。
・競技開催方式変更ポスターを作製し、加盟倶楽部並びに競技者へ周知徹底を図る。
・競技参加料の減額を検討して欲しい。
・競技委員の増員を検討する。

4・平成22年度関東女子倶楽部対抗競技開催に関する件

競技委員長内藤常務理事より、資料に基づき説明がなされ、開催方式の承認がなされた。また、報知新聞社へ記事広告を出稿することにより、標題競技を含めたKGA主催競技の記事広告及び成績等を掲載していく事が承認された。

5・KGAルールズオフィシャル制度に関する件

競技委員長内藤常務理事より、資料に基づき説明がなされ、承認された。尚、詳細な制度に関しては今後の検討課題とすることが確認された。

6・函南ゴルフ倶楽部からの加盟に関する件

事務局より資料に基づき説明がなされ、標題倶楽部からの要望である「36ホール登録から18ホール登録」へ加盟条件変更は認めない事が承認された。

7・月例競技会に於ける高校生出場制限に関する件

富田副理事長及び事務局より説明がなされ、高校生が学校を休んで月例競技会へ参加する事は、競技の目的にそぐわないと判断される為、高校生の参加は学業を優先する見地から年4回までとするが承認された。

8・荒天等競技開催中止に伴うコース借用料に関する件

事務局より資料に基づき説明がなされ、主催競技が荒天等により競技日に開催されず、予備日を使用した場合のコース使用料は、予備日については新たにコース借用料を支払わず、コース使用料は従来通り競技日、予備日を通じたコース借用料とするものであることの確認がなされた。尚、コース借用料の金額等について今後検討していくことが確認された。

9・平成22年度会議室料変更に伴う対処に関する件

事務局より資料に基づき説明がなされ、今後は総務委員会と事務局にて検討し、決定することの承認がなされた。

等整合性がとれるようにする。
・予選競技方法は、男子の倶楽部対抗と同じように項目によっては、各都県の実情を反映した競技方法をとる事を可能とする。

(2)平成22年度関東アマチュアゴルフ選手権内容について

内藤常務理事より、標題競技「準決勝競技」設置(案)の説明がなされ、承認された。変更内容は以下の通り。

①関東グランドシニアゴルフ選手権決勝競技
2日間競技、36ホール・ストロークプレーとする。

②関東ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝競技
3日間競技、54ホール・ストロークプレーとする。

(3)平成22年度グランドシニア・ミッドアマチュア決勝競技ラウンド数変更について

内藤常務理事より、平成22年度より標題競技のラウンド数変更が報告され、承認された。変更内容は以下の通り。

①関東グランドシニアゴルフ選手権決勝競技
2日間競技、36ホール・ストロークプレーとする。

②関東ミッドアマチュアゴルフ選手権決勝競技
3日間競技、54ホール・ストロークプレーとする。

伊藤常務理事(富士カントリークラブ)、御殿場ゴルフ倶楽部の推薦を受け、正会員への加盟が承認された。

「ワールドエースカントリークラブ」(山梨県)
志村常務理事(富士レイクサイドカントリー倶楽部)、ヴィンテージゴルフ倶楽部の推薦を受け、準会員への加盟が承認された。

(2)退会倶楽部について

「ケントスゴルフクラブ」(栃木県・正会員)の退会届を受理し、退会を承認した。

2・競技委員長に関する件

競技委員長内藤常務理事、総務委員会小宮山常務理事より、標題委員会について以下の報告があり審議がなされた。主な審議内容は以下の通り。

(1)平成22年度女子倶楽部対抗競技内容について

内藤常務理事より、標題競技の開催の目的、開催の内容についての説明があり、以下の内容の承認がなされた。また、小宮山常務理事より標題競技での収支報告(案)がなされ、初年度はゴルフ振興と普及を考慮し、若干の赤字となる旨の報告がなされた。

・出場選手の構成を「50歳以上2名以上(昭和35年(1960年)12月31日以前に誕生)」にする。
・男子の倶楽部対抗の競技と競技規定

平成21年度 第2回常務理事会 議事録

日時／平成21年7月7日(火) 正午
場所／グランドアーク半蔵門 和の間
出席者／竹田理事長、髙橋・富田両副理事長
相澤、伊藤、小宮山、齋藤、志村、相馬、塚原、内藤、廣幡、宮坂、渡邉各常務理事

定刻、竹田理事長が議長を務め開会を宣した。事務局より理事長、副理事長、常務理事16名中、委任状を含め出席者16名となり、適法に成立した旨の報告の後、議事録署名者として、齋藤、志村両常務理事を指名し順次議題審議を行った。

討議及び決議事項

■承認事項

1・加盟審査に関する件

(1)加盟審査倶楽部について

「ギャツビイゴルフクラブ」(静岡県)
4回理事会、第62回通常総会の日程報告がなされこれを確認した。

3・総務委員会に関する件

関東ゴルフ連盟内における支配人部会設立について
小宮山常務理事より、平成21年6月30日に行われた第2回総務委員会で検討を行った標題の件につき説明がなされ、部会として設置しない事が承認された。

4・広報委員会に関する件

KGAニュース100号発行に伴う名称変更とロゴについて
塚原常務理事より、標題の件につき説明報告がなされ、新ロゴ案が承認された。

5・後援競技に関する件

次の11競技の後援が承認された。

「第38回静岡県アマチュアゴルフ選手権大会」
「第31回埼玉県アマチュアゴルフ連盟選手権」
「第24回埼玉県シニアゴルフ選手権大会」
「平成21年度関東高等学校ゴルフ選手権大会第28回団体の部・第43回個人の部」
「第8回茨城女子アマチュアダブルスゴルフ選手権大会」
「第5回茨城シニアアマチュアダブルスゴルフ選手権大会」
「第22回茨城アマチュアダブルスゴルフ選手権大会」
「ゴルフネットワーク選手権 Skins CUP 2009」
「平成21年度夏季ジュニア・ゴルフスクール」(長野県ゴルフ協会主催)
「第21回山梨県ジュニアゴルフ教室」(山梨県ゴルフ協会主催)
「夏休みジュニアゴルフ教室」(熊谷市ゴルフ連盟主催)
「ジャパンターフショー」

6・(財)日本ゴルフ協会 個人会員入会に関する件

7月7日現在、申請のあった46名を承認した。

■報告事項

事務局より、以下の報告がなされ確認がなされた。

・平成22年度JGA主催競技KGA内開催コース選定について
・平成22年度主催競技予選・決勝競技開催コース選定について
・平成21年度アンダーハンディキャップゴルフ選手権開催及び平成22年度開催について
・JGAに対する「国民体育大会に関する要望書」提出について
・廃棄物不法投棄の問題に伴う通知について

10・(財)日本ゴルフ協会 個人会員入会審査に関する件

11月20日現在、申請のあった84名を承認した。

11・後援依頼に関する件

次の2競技の後援が承認された。

「第22回山梨県アマチュアゴルフ選手権大会」
「第28回日刊アマ関東ダブルスゴルフ選手権」

■報告事項

事務局より、以下の報告がなされ確認がなされた。

・平成21年度一般会計・特別会計決算案ならびに平成22年度一般会計・特別会計予算案に関する件
・平成22年度分科委員会・部会委員候補者推薦に関する件
・新評議員推薦に関する件
・JGAハンディキャップシステム「J-sys」登録者数推移に関する件
・平成22年度主催競技日程に関する件
・農薬危害防止運動に関する件
・平成22年度関東倶楽部対抗予選競技開催方式に関する件

■その他

・東京都に於ける代表者会議の報告
・事務局より第4回常務理事会及び第

平成21年度 第1回常務理事会 議事録

日時／平成21年4月9日(木) 正午
場所／グランドアーク半蔵門 和の間
出席者／竹田理事長、髙橋・富田両副理事長
相澤、伊藤、小宮山、齋藤、佐藤、篠崎、志村、相馬、塚原、内藤、宮坂、渡邉各常務理事

定刻、竹田理事長が議長を務め開会を宣した。事務局より理事長、副理事長、常務理事16名中、委任状を含め出席者16名となり、適法に成立した旨の報告の後、議事録署名者として、伊藤、小宮山両常務理事を指名し順次議題審議を行った。

討議及び決議事項

■承認事項

1・加盟審査に関する件

「麻倉ゴルフ倶楽部」(千葉県)
渡邉常務理事(エンゼルカントリークラブ)、森永高滝カントリー倶楽部の推薦を受け、準会員への加盟が承認された。

2・競技委員会に関する件

内藤常務理事より、標題委員会について報告があり、審議がなされた。

(1)平成22年度主催競技予選・決勝競技開催コース選定について

平成22年度主催競技予選開催コース及び決勝競技開催コースの報告がなされ、予選開催コースについては幅広いコース選定の要望がなされ、コース選定部会で再検討し、部会一任の上、来る7月7日(火)の第2回常務理事会で報告されることが確認された。

(2)平成22年度JGA主催競技KGA内開催コース選定について

標題の件について報告があり承認された。

(3)倶楽部対抗賞杯デザインについて

事務局より、標題の件について説明がなされ、歴史的な背景をふまえ、現在使用している賞杯を活用していくことが承認された。

(4)平成21年度アンダーハンディキャップゴルフ選手権について

事務局より、平成21年度関東アンダーハンディキャップ選手権予選開催倶楽部・開催日及び大会会長の報告があり、承認された。

(5)平成21年度女子倶楽部対抗競技開催について

事務局より、標題競技埼玉ブロック大会競技規定の報告がなされた。

3・広報委員会に関する件

塚原常務理事より、標題委員会についての報告があり、審議がなされた。

(1)75年史作成の方針と期限について

編集方針・発刊期日及び作成費用の説明がなされ、承認された。また、発刊期日については、連盟競技日程修了後にすることが確認された。

(2)メディア交流会(仮称)開催について

メディア交流をすることによりＫＧＡの認知度を上げることの主旨説明があり、開催が承認された。また、メディア側の参加者選考については広報委員会一任とすることが確認された。

(3)エチケット・ポスターの作成・配布について

ポスターデザイン及び作成枚数の説明がなされ、加盟倶楽部へ各6枚を配布する旨の報告がなされた。

(4)平成21年度倶楽部対抗競技番組企画について

事務局より、連盟の主たる競技である標題競技の番組放映企画についての説明がなされ、来年度75周年記念事業として継続審議される旨の報告がなされた。

4・総務委員会に関する件

小宮山常務理事より、標題委員会についての説明があり、審議がなされた。

(1)関東ゴルフ連盟内における支配人部会設立について

支配人部会設立に関する説明がなされ、今後とも総務委員会において継続審議する事となった。それに伴い各都県常務理事が各都県への連絡を密にして欲しい旨の報告がなされ確認した。

(2)各都県ＫＧＡ協議会への助成金使用用途について

各都県への助成金についての内容説明と報告があり、昨年度の助成金の各都県使用用途の報告が提出され内容を確認した。また、来年度以降も使用用途の報告書は提出を依頼することが確認された。

(3)平成21年度女子倶楽部対抗競技賞品代について

標題の件について説明がなされ、承認された。

(4)ジュニア・スクール実施マニュアル作成費用について

標題の件について説明がなされ、承認された。

5・後援競技に関する件

事務局より、標題の件について説明がなされ、申請7競技の後援を承認した。

6・(財)日本ゴルフ協会　個人会員入会に関する件

事務局より、標題の件について報告がなされ、申請18名の推薦を承認した。

■報告事項

事務局より、以下の報告がなされ確認した。

・平成21年度関東ゴルフ連盟　役員・委員に関する件

・平成21年度倶楽部対抗競技各ブロック大会会長に関する件

・関東アマ、倶楽部対抗競技開催方法の改善に関する件

・「国民体育大会に関する要望書」に対するＪＧＡからの見解に関する件

尚、関東アマ、倶楽部対抗競技開催方法については、総務委員会及び競技委員会で継続審議されることが確認された。

平成22年度 第1回理事会 議事録

日時／平成22年2月19日(金)　11：15

場所／グランドアーク半蔵門　光の間

出席者／竹田理事長、髙橋・富田副理事長

相澤、伊藤、小宮山、齋藤、佐藤、篠崎、志村、相馬、塚原、内藤、廣幡、宮坂、渡邉各常務理事

相山、荒井、安蔵、池谷、諫山、稲川、岩宮、牛込、海老原、大鷲、岡田、川田、神田、木村、小坂、後藤、五味、佐々木、篠崎、下条、関根、高澤、高橋、田熊、田村、中島、中野、貫井、野村、早川、平岩、平山、福嶋、福田、発知、前川、牧野、松本、村山、山田各理事

近藤、浜口監事

定刻、竹田理事長が議長を務め開会を宣した。事務局より理事61名中、委任状を含め59名の出席となり、適法に成立した旨の報告の後、竹田理事長より議事録署名者として、齋藤常務理事と牛込理事が指名され、順次議題審議を行った。

会議に先立ち、事務局より本年度寄付をして頂いた方々の紹介があり、東京青年会議所「じゃがいもクラブ」より理事長へ目録の贈呈がなされた。

討議及び決議事項

■承認事項

1・加盟審査に関する件

「石岡ゴルフ倶楽部ウエストコース」(茨城県)

塚原常務理事(ザ・オーシャンゴルフクラブ)、「土浦カントリー倶楽部」の推薦を受け、準会員から正会員への加盟変更が承認された。

2・(財)日本ゴルフ協会 平成22年度委員会委員候補者推薦に関する件

「麻倉ゴルフ倶楽部」(千葉県)

渡邉常務理事(エンゼルカントリークラブ)、「森永高滝カントリー倶楽部」の推薦を受け、準会員から正会員への加盟変更が承認された。

選任は理事長、副理事長に一任された。

3・(財)日本ゴルフ協会 個人会員入会の件

2月19日現在、申請のあった14名を承認した。

4・後援競技について

2月19日現在、申請があった17競技を承認した。

■報告事項

事務局より、以下の報告がなされ確認された。

・平成22年度分科委員に関する件

・平成22年度関東倶楽部対抗競技に関する件

・平成22年度関東女子倶楽部対抗競技に関する件

平成21年度 第3回理事会 議事録

日時／平成21年11月25日(水)　正午

場所／グランドアーク半蔵門　光の間

出席者／竹田理事長、髙橋・富田副理事長

相澤、小宮山、齋藤、志村、塚原、内藤、渡邉各常務理事

相山、荒井、安蔵、池谷、諫山、井上、岩宮、牛込、海老原、大鷲、岡田、川田、神田、木村、後藤、五味、佐々木、篠崎、下条、関根、田熊、高澤、高橋、田熊、中島、中野、貫井、早川、平岩、平山、福田、発知、前川、牧野、松本、村山、山田各理事

近藤・浜口監事

定刻、竹田理事長が議長を務め開会を宣した。事務局より理事62名中、委任状を含め61名の出席となり、適法に成立した旨の報告の後、竹田理事長より議事録署名者として、渡邉常務理事と諫山理事が指名され、順次議題審議を行った。

討議及び決議事項

■承認事項

1・75周年記念事業に関する件

①総務委員長小宮山常務理事より75周年記念事業についての説明がなされ、平成22年度第62回通常総会後の懇親会を記念式典とする事の承認がなされた。式典会場及び構成・招待客等の詳細は総務委員会と事務局にて検討する事が確認された。

②広報委員会に係る事項

広報委員長塚原常務理事より75年史の編集状況の説明がなされ、平成22年11月発刊に向けての活動状況の報告がなされ承認された。

2・平成22年度関東アマチュアゴルフ選手権開催方式変更に関する件

競技委員長内藤常務理事より、標題

平成21年度第2回理事会議事録

日時／平成21年7月15日（水）　正午
場所／グランドアーク半蔵門　光の間
出席者／竹田理事長、髙橋・富田副理事長
相澤、伊藤、小宮山、齋藤、佐藤、篠﨑、志村、塚原、内藤、渡邉各常務理事
相山、荒井、池谷、諫山、伊藤、稲川、岩宮、牛込、海老原、遠藤、大鷲、岡田、川田、神田、木村、黒澤、五味、佐々木、篠﨑、下条、関根、田熊、田村、中島、中野、貫井、野村、早川、平岩、平山、福嶋、発知、前川、松本、村山、山田各理事
近藤・浜口監事

定刻、竹田理事長が議長を務め開会を宣した。事務局より理事62名中、委任状を含め60名の出席となり、適法に成立した旨の報告の後、竹田理事長より議事録署名者として、塚原常務理事、池谷理事が指名され、順次議題審議を行った。

「平成倶楽部鉢形城コース」（埼玉県）準会員

②退会倶楽部について

平成20年度、21年度の年会費未納倶楽部について事務局より報告があり、以下の3倶楽部を来る平成22年1月14日（木）に開催される第4回常務理事会において退会の勧告を決議することが報告された。

「ルーセントカントリークラブ」（新潟県）正会員

「サンライズカントリークラブ」（茨城県）正会員

「セント・フィールズゴルフクラブ」（茨城県）正会員

(2)平成21年度一般会計・特別会計決算案ならびに平成22年度一般会計・特別会計予算案に関する件

(3)平成22年度分科委員会・部会委員候補者推薦に関する件

(4)新評議員推薦に関する件

(5)JGAハンディキャップシステム「J-sys」登録者推移に関する件

(6)平成22年度主催競技日程に関する件

(7)農薬危害防止運動に関する件

(8)平成22年度関東アンダーハンディキャップブロック予選会場に関する件

5・(財)日本ゴルフ協会個人会員入会について

7月15日現在、申請のあった46名を承認した。

・平成21年度アンダーハンディキャップゴルフ選手権開催、及び同競技平成22年度開催コース選定について

・平成21年度前期主催競技結果について

②ジュニア育成委員会

ジュニア育成委員長大鷲理事より、関東ジュニア選手権、夏季小学生大会、スクール、及び関東圏内におけるJGAジュニア会員増加の報告がなされた。

③広報委員会

広報委員長塚原常務理事より、メディア交流会について報告がなされた。

④グリーン委員会

グリーン委員会委員長平山理事より、第58回グリーン研究講習会について報告がなされた。

⑤体協委員会

体協委員会委員長岩宮理事より、JGAに対する「国民体育大会に関する要望書」提出ついて報告がなされた。

4・後援競技について

7月15日現在、申請があった11競技の後援を承認した。

競技開催方式変更の説明がなされ、開催方式変更の承認がなされた。主な変更内容は以下の通り。

・参加資格ハンディキャップの変更

・予選競技会場の増加

・ブロック大会の新設

3・平成22年度関東女子倶楽部対抗競技開催に関する件

競技委員長内藤常務理事より、標題競技開催に関しての説明がなされ、開催方式の承認がなされた。また、報知新聞社へ記事広告料を出稿することにより、標題競技を含めたKGA主催競技の記事広告及び成績等を掲載していくことが承認された。

4・KGAルールズオフィシャル制度に関する件

競技委員長内藤常務理事より、主催競技の管理及び運営を円滑にする為、各委員の規則の知識のレベルアップを図る目的から独自の制度を企画することの説明がなされ、KGAルールズオフィシャル制度の承認がなされた。尚、詳細に関しては今後の検討課題とする事の確認がなされた。

5・主催予選競技開催倶楽部に対する選手枠設置に関する件

事務局より標題に関する説明がなされ、主催予選競技開催倶楽部の選手枠設置の承認がなされた。

6・平成22年度会議室料変更に伴う対処に関する件

事務局より説明がなされ、会場費高騰に対する対処として、今後は総務委員会及び事務局にて検討し、決定する事の承認がなされた。

7・(財)日本ゴルフ協会個人会員入会審査に関する件

11月20日現在、申請のあった84名を承認した。

8・後援依頼に関する件

次の2競技の後援が承認された。

「第22回山梨県アマチュアゴルフ選手権大会」

「第28回日刊アマ関東ダブルスゴルフ選手権」

■報告事項

事務局より、以下の報告がなされた。

(1)加盟審査及び退会勧告に関する件

①加盟審査倶楽部について

事務局より、11月20日（金）に行われた第3回常務理事会にて承認された加盟倶楽部の報告がなされた。

「グランドスラムカントリークラブ」（茨城県）正会員　平成22年1月1日付加盟

討議及び決議事項

■承認事項

1・競技委員会に関する件

競技委員長内藤常務理事より、以下の競技について、新設及び開催方式の変更内容について説明がなされ、これを承認した。

①平成22年度女子倶楽部対抗競技：競技の新設

②平成22年度関東アマチュア：準決勝競技の新設

③平成22年度関東グランドシニア：決勝競技ラウンド数の変更

④平成22年関東ミッドアマチュア：決勝競技ラウンド数の変更

2・総務委員会に関する件

総務委員長小宮山常務理事より、関東ゴルフ連盟内における支配人部会の設立の件につき説明がなされ、支配人部会は設立しないことを承認した。

3・広報委員会に関する件

広報委員長塚原常務理事より、KGAニュース100号発行に伴う名称変更とロゴ、及びKGAニュース100号発刊日の変更説明がなされ、これを承認した。

■報告事項

1・加盟審査及び退会に関する件

事務局より、7月7日（火）に行われた第2回常務理事会にて承認された加盟倶楽部及び退会倶楽部の報告がなされた。

①加盟倶楽部

「ギャツビイゴルフクラブ」（静岡県）正会員

「ワールドエースカントリークラブ」（山梨県）準会員

②退会倶楽部

「ケントスゴルフクラブ」（栃木県）正会員

2・廃棄物不法投棄の問題に伴う通知について

事務局より、標題の件について、加盟倶楽部、紫雲ゴルフ倶楽部の運営会社、及び報道各社へ送付した書面の報告がなされた。

3・各分科委員会に関する件

①競技委員会

競技委員長内藤常務理事より、以下の報告がなされた。

・平成22年度JGA主催競技KGA内開催コース選定について

・平成22年度主催競技決勝・予選競技開催コースについて

KGA月例競技成績

平成21年度12月月例　平成21年12月14日（月）　我孫子ゴルフ倶楽部

男子

ランク	スコア	氏　名	所　属
1	68	小原 淳	セントラル
2	71	松田 永基	清川
	71	青木 龍一	東名
4	72	佐藤 和夫	東千葉
	72	角田 浩導	東千葉
	72	竹原 洋行	東名

女子

ランク	スコア	氏　名	所　属
1	73	亀田 愛里	富士御殿場
2	76	工藤 遥加	成田東
3	77	眞尾 万里	こだま神川
	77	佐藤 千紘	伊勢原
	77	嶋田 江莉	アザレア
	77	南雲 真理	箱根

平成22年度1月月例　平成22年1月25日（月）　相模原ゴルフクラブ・東コース

男子

ランク	スコア	氏　名	所　属
1	73	松田 永基	清川
2	73	青木 龍一	東名
	73	吉川 正憲	熊谷
4	75	一之瀬 方賛	上田丸子グランヴィリオ
	75	河内 喜文	水戸

※優勝はプレーオフによる

女子

ランク	スコア	氏　名	所　属
1	75	植田 希実子	大宮国際
2	76	佐藤 千紘	伊勢原
3	77	前田 千尋	越生
4	78	矢嶋 里奈	霞ヶ関
	78	田原 彰乃	群馬

平成22年度2月月例　平成22年2月12日（金）　袖ヶ浦カンツリークラブ・袖ヶ浦コース

男子

ランク	スコア	氏　名	所　属
1	72	伊藤 涼太	鷹
2	75	松田 永基	清川
	75	水上 晃男	袖ヶ浦
	75	池田 純	東名厚木
5	76	毛利 史郎	茨城
	76	斉藤 麗	甲府国際
	76	勝又 正浩	東京
	76	小平 智	鷹

女子

ランク	スコア	氏　名	所　属
1	82	矢嶋　里菜	霞ヶ関
	82	沓沢 良子	江戸崎
	82	亀田　愛里	富士御殿場
	82	南雲 真理	箱根
5	83	田中 真弓	成田東
	83	三木 恵美子	富士

※優勝はプレーオフによる

KGA GOLFER'S NEWS NO.102

平成22年3月20日発行
KGA GOLFER'S NEWS No.102
発行所／関東ゴルフ連盟
〒104-0061 東京都中央区銀座8丁目18番11号
銀座SCビル4階
TEL 03-6278-0005 FAX 03-6278-0008
ホームページ **http://www.kga.gr.jp**
発行人／竹田恆正　編集／広報委員会

編集後記

関東ゴルフ連盟創立75周年の節目にあたり、広報委員会委員長を務めさせていただく幸運を喜ぶと同時に、新たなスタートへの推進役の一人として、責任の重要さを自覚しております。記念式典の祝賀会場では、広報委員会制作によるDVDを放映し、即日、ホームページでも視聴可能となっています。今号の『創立75周年記念特集号』はKGAの輝かしい歴史を振り返り、かつ、次のステップへ向かう指針を表しています。これも「プレイ ファースト」を広義に解釈して、広報活動の迅速化を図るものです。また「ワン フォー オール」も、男子・女子の倶楽部対抗競技の合言葉に留めず、関東ゴルフ連盟、全委員会の奮起表明といたします。　（広報委員長　塚原 裕）